



BOM Report オプション Ver.8.0

ユーザーズマニュアル

免責事項

本書に記載された情報は、予告無しに変更される場合があります。セイ・テクノロジーズ株式会社は、本書に関していかなる種類の保証（商用性および特定の目的への適合性の黙示の保証を含みますが、これに限定されません）もいたしません。

セイ・テクノロジーズ株式会社は、本書に含まれた誤謬に関する責任や、本書の提供、履行および使用に関して偶発的または間接的に起こる損害に対して、責任を負わないものとします。

著作権

本書のいかなる部分も、セイ・テクノロジーズ株式会社からの文書による事前の許可なしには、形態または手段を問わず決して複製・配布してはなりません。

商標

本ユーザーズマニュアルに記載されている「BOM」はセイ・テクノロジーズ株式会社の登録商標です。また、本文中の社名、製品名、サービス名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

なお、本文および図表中では、「TM」（Trademark）、「(R）」（Registered Trademark）は明記しておりません。

目次

本書について

- 表記について
- 使用方法
- 環境説明

第1章 システム構成

第2章 インストール

1. 動作環境
 - (1) Report オプションの動作環境
 - (2) 対応データベース
2. 事前の準備
3. アーカイブデータベースの構築
 - (1) アーカイブデータベース管理の新規インストール
 - (2) アーカイブデータベース管理メニューの追加インストール
 - (3) アーカイブデータベースの新規構築
4. アーカイブデータベースのアップグレード
5. アーカイブサービスの導入
 - (1) アーカイブサービスの新規インストール
 - (2) アーカイブサービスの追加インストール
 - (3) アーカイブデータベースへの接続設定
6. レポート用監視テンプレートの適用
7. レポートデータベース管理
 - (1) レポートデータベース管理メニューの新規インストール
 - (2) レポートデータベース管理メニューの追加インストール
8. Report オプションのインストール
 - (1) Report オプションの新規インストール
 - (2) Report オプションの追加インストール
9. BOM レポートデータベースの作成
 - (1) "BOM 8.0 レポートデータベース管理メニュー"の起動
 - (2) "BOM 8.0 レポートデータベース管理メニュー"の詳細
10. SQL Server Express Editionへのインストールについて
11. BOM レポートデータベース設定ウィザードの起動と実行
 - (1) レポートデータベース設定ウィザードの起動
 - (2) レポートデータベース設定ウィザードの実行

第3章 アンインストール

1. アーカイブサービスのアンインストール
2. アーカイブデータベース
 - (1) アーカイブデータベースの削除
 - (2) アーカイブデータベース管理のアンインストール
3. レポートデータベース
 - (1) レポートデータベースの削除
 - (2) レポートデータベース管理のアンインストール
4. Report オプションのアンインストール

第4章 レポートの出力

1. レポート出力ウィザードの起動
2. レポート出力ウィザードの実行
 - (1) ウェルカム

- (2) レポートデータベースへの接続
- (3) レポート出力期間の指定
- (4) レポート作成インスタンスの指定
- (5) レポートデザインの指定
- (6) デザインデータソースの設定
- (7) 出力設定の確認
- (8) レポート完了

第5章 出力レポート

本書について

表記について

本書では、以下のとおり省略した記載を行う場合があります。

製品名、または省略しない表記	本書での記載（略称）
BOM Report オプション Ver.8.0 SR2	Report オプション
BOM for Windows Ver.8.0 SR2	BOM 8.0
BOM for Windows Ver.7.0	BOM 7.0
BOM for Windows Ver.6.0	BOM 6.0
BOM 8.0 レポート出カウィザード	レポート出カウィザード
BOM 8.0 レポートデータベース設定ウィザード	レポートデータベース設定ウィザード
BOM 8.0 レポートデータベース管理メニュー	レポートデータベース管理メニュー
BOM 8.0 アーカイブデータベース管理メニュー	アーカイブデータベース管理メニュー
Microsoft SQL Server	SQL Server

使用方法

本書には、Report オプションを使用する際に必要となる詳細な情報と手順が記載されています。

- BOM 8.0のインストールに関しては'BOM for Windows Ver.8.0 インストールマニュアル'を参照してください。
- 本書を使用するには、Microsoft Windowsオペレーティングシステムについての実際的な知識と、BOM 8.0の基本的な知識が必要です。
- 本書には外部のウェブサイトへの URL が記載されている場合があります。
PDF 形式のユーザーズマニュアルでは使用する PDF リーダーによってこの URL が自動的にリンク化される場合がありますが、URL に改行が含まれていると正しいリンク先に遷移できません。このような場合は URL をコピーし、ブラウザに貼り付けて表示してください。
- 本書に更新・訂正などが生じた際は、弊社ウェブサイト上で情報を公開しますので、あわせて参照してください。

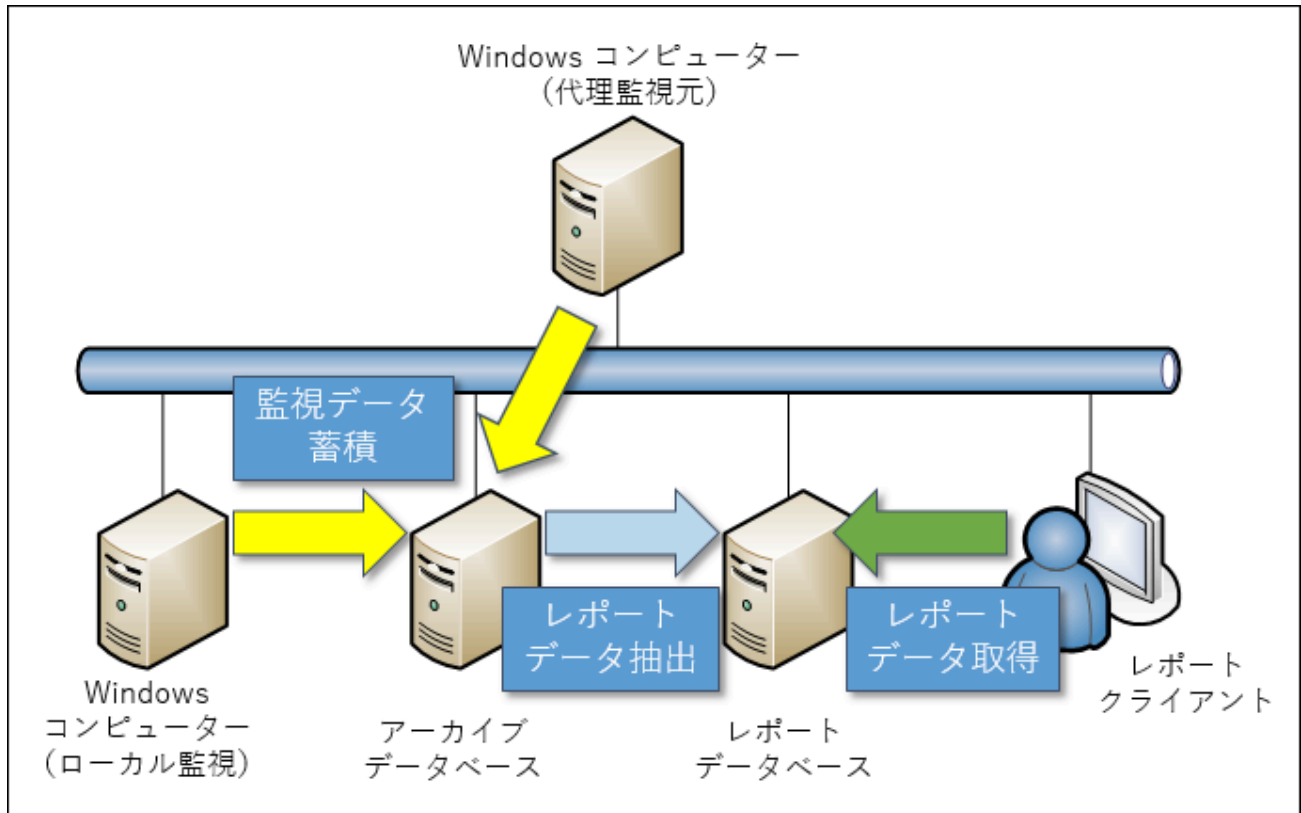
環境説明

- 本書では、コンピューターの操作画面として、主にWindows Server 2022で取得した画像を使用しています。お使いの OS によって表示内容が若干異なる場合がありますが、適宜読み替えてください。

第1章 システム構成

Report オプションは、BOM 8.0で監視しているコンピューターの監視レポートを出力するためのオプションです。Report オプションを使用することにより、コンピューターの稼働状況を定期的に把握することができます。

Report オプションは、レポート用のデータを蓄積するコンピューター（アーカイブデータベース）と、そのコンピューター上のデータを基にレポート用データを格納するレポートデータベース、レポート用データを基にレポートを出力するコンピューター（レポートクライアント）で構成されます。



- アーカイブデータベースを構築し、各コンピューターの監視データを集約します。（別途Microsoft SQL Serverのライセンスが必要です。）
- BOM 8.0を導入したWindowsコンピューターにアーカイブサービスをインストールし、アーカイブデータベースに監視データを蓄積するように構成します。
- レポートデータベースに、BOM 8.0 レポートデータベースおよび、レポートデータベース設定ウィザードをインストールします。
- レポートクライアントに、BOM 8.0 レポート出力ウィザードをインストールします。
- レポートデータベースから、アーカイブデータベースに接続し、蓄積されたデータを基にレポート用のデータベースを作成します。
- レポートクライアントから、レポートデータベースへ接続し、作成されたレポートデータベースのデータを基にレポートを作成します。
 - ※ アーカイブデータベースおよびアーカイブサービスはBOM 8.0の標準機能です。導入に際し、追加ライセンス等は必要ありません。詳細については、'BOM for Windows Ver.8.0 アーカイブユーザズ マニュアル'を参照してください。

第2章 インストール

Report オプションは以下のアプリケーションから構成されています。

- レポートデータベース設定ウィザード
- レポート出力ウィザード
- ReportETL.exe (レポートデータベース用データ出力モジュール)

※ 以上に加え、BOM レポートデータベースの作成には「レポートデータベース管理メニュー」を使用します。
本章ではこれらのインストール方法および、レポート出力環境の構築方法について説明します。

1. 動作環境

(1) Report オプションの動作環境

Report オプションに含まれる各アプリケーションの動作環境は以下のとおりです。

- 基本条件
 - BOM for Windows Ver.8.0 の動作環境に準拠します。詳細は'BOM for Windows Ver.8.0 インストールマニュアル'で「BOM のシステム要件」を参照してください。
- その他の要件
 - .NET Framework 4.6.2 以降
 - ※ BOM 8.0のサポートOSには通常、標準状態でインストールされています。
 - ※ 「レポートデータベース管理メニュー」の動作要件には含まれません。
 - MHTML形式で出力したレポートは、以下のウェブブラウザで表示できます。
 - Microsoft Edge の Internet Explorer モード

(2) 対応データベース

BOM Report オプションで対応しているSQL Server (アーカイブデータベースおよびレポートデータベース) は以下のバージョンです。

バージョン	エディション	サービスパック
SQL Server 2022	Enterprise Edition Standard Edition Express Edition	—
SQL Server 2019	Enterprise Edition Standard Edition Express Edition	—
SQL Server 2017	Enterprise Edition Standard Edition Express Edition	—

バージョン	エディション	サービスパック
SQL Server 2016	Enterprise Edition Standard Edition Express Edition	SP3以降
SQL Server 2014 (32-bit/64-bit)	Enterprise Edition Business Intelligence Standard Edition Express Edition	SP3以降

- 各SQL Serverには提供するマイクロソフト社がその環境のサポート期間を設定しており、経過後はサポートが終了します。本製品はこのサポート終了後も当該の環境で使用できますが、マイクロソフト社のサポート終了後に当該環境上で発生した不具合は当社サポートの対象外となります。

2. 事前の準備

Report オプションで監視コンピューターのレポートを出力する際は、事前の準備として以下の作業が必要です。

- BOM アーカイブデータベースの新規構築または、アップグレード
- Reportオプション用の各レポートに準じた監視項目でのレポート用データ収集
- BOM レポートデータベースの作成または、アップグレード
 - 出力するWindows監視インスタンス 1インスタンス事に1か月分のデータx200MB（3か月のデータを出力したい場合には600MB）の容量が必要です。
- BOM レポートデータベースの設定

3. アーカイブデータベースの構築

監視コンピューターのデータを蓄積するためには、SQL Serverに対してデータ蓄積用にアーカイブデータベースを導入する必要があります。アーカイブデータベースの導入、またはアップグレードについて、以下の手順に沿って作業してください。

なお、作業にあたっては管理者権限が必要です。管理者権限を持つアカウントにてログオンの上で作業を行ってください。

- 以降の手順は、アーカイブデータベースを導入するSQL Serverの用意が完了していることを前提とし、必要な作業項目の概要のみを抽出した概略手順です。アーカイブデータベースの詳細な導入手順については、'BOM for Windows Ver.8.0 アーカイブユーザズマニュアル'を参照してください。

(1) アーカイブデータベース管理の新規インストール

BOM 8.0に関するコンポーネントを一切入れていないコンピューターに対して、アーカイブデータベース管理をインストールする手順の概要です。

1. BOM 8.0のインストールパッケージに格納されている"autorun.hta"を実行し、インストールランチャーを起動します。
2. メニューから、"アーカイブデータベース"をクリックし、セットアップウィザードを起動します。
3. "セットアップタイプ"画面まで進め、"標準"または"カスタム"を選択して[次へ]ボタンをクリックします。
4. "カスタム"を選択した場合は、"アーカイブデータベース管理"がインストール対象となっている（ハードディスクアイコンになっている）ことを確認し、必要に応じて他の機能の追加やインストール先の変更を行った上で[次へ]ボタンをクリックします。
5. 以降はセットアップウィザードに従い、"アーカイブデータベース管理"のインストールを完了します。

(2) アーカイブデータベース管理メニューの追加インストール

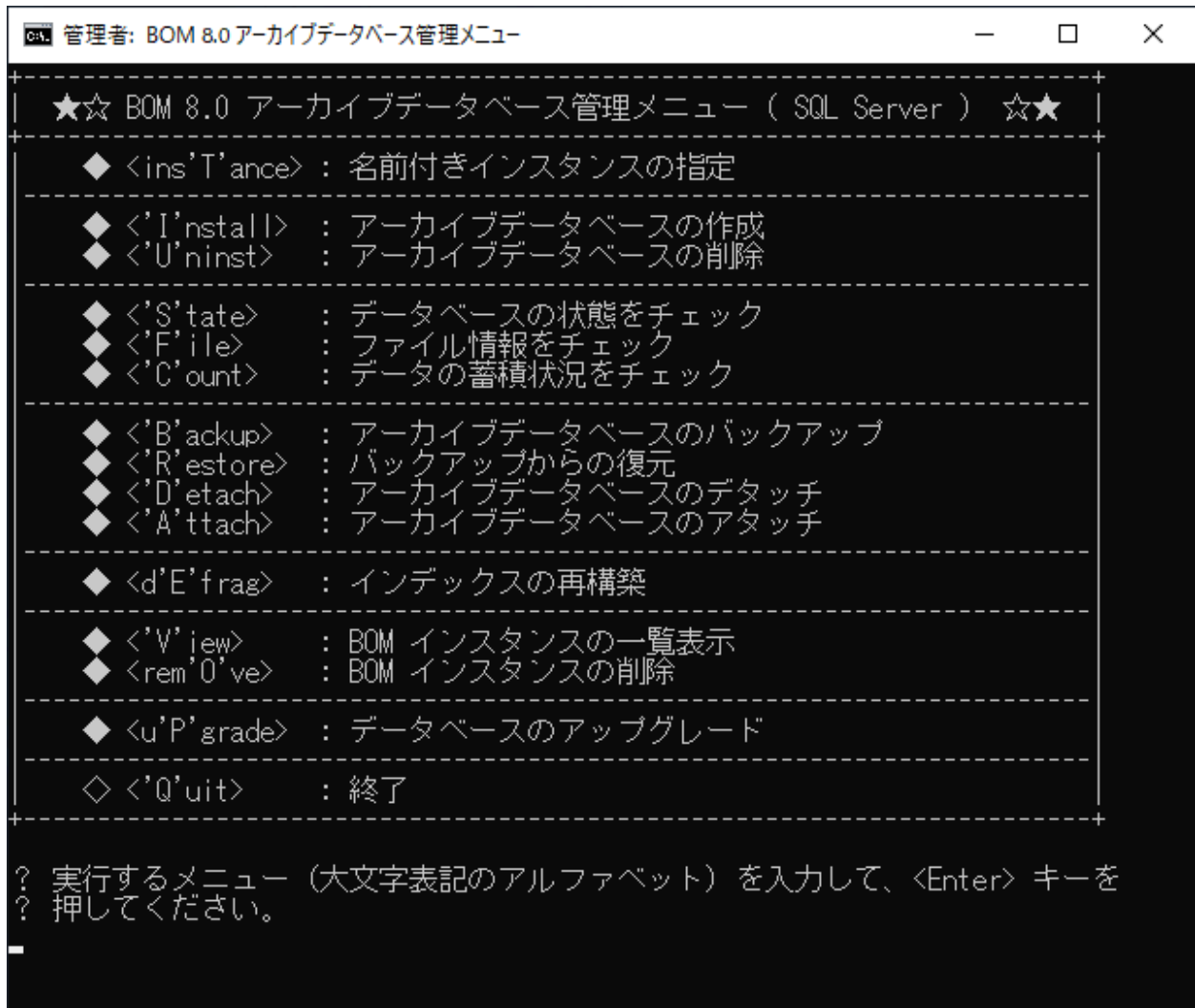
BOM監視サービスなどのBOMコンポーネントがすでにインストールされたコンピューターに、アーカイブデータベース管理メニューを追加でインストールする場合、以下の手順で追加インストールを行ってください。

1. BOM 8.0のインストールパッケージに格納されている"autorun.hta"を実行し、インストールランチャーを起動します。
2. メニューから"アーカイブデータベース"をクリックし、セットアップウィザードを起動します。
3. "プログラムの保守"画面まで進め、"変更"ラジオボタンが有効になっていることを確認して[次へ]ボタンをクリックします。
4. "カスタムセットアップ"画面で"アーカイブデータベース管理"のアイコンをクリックし、"この機能をローカルのハードディスクドライブにインストールします。"を選択して、[次へ]ボタンをクリックします。
5. 以降はセットアップウィザードに従い、"アーカイブデータベース管理"のインストールを完了します。

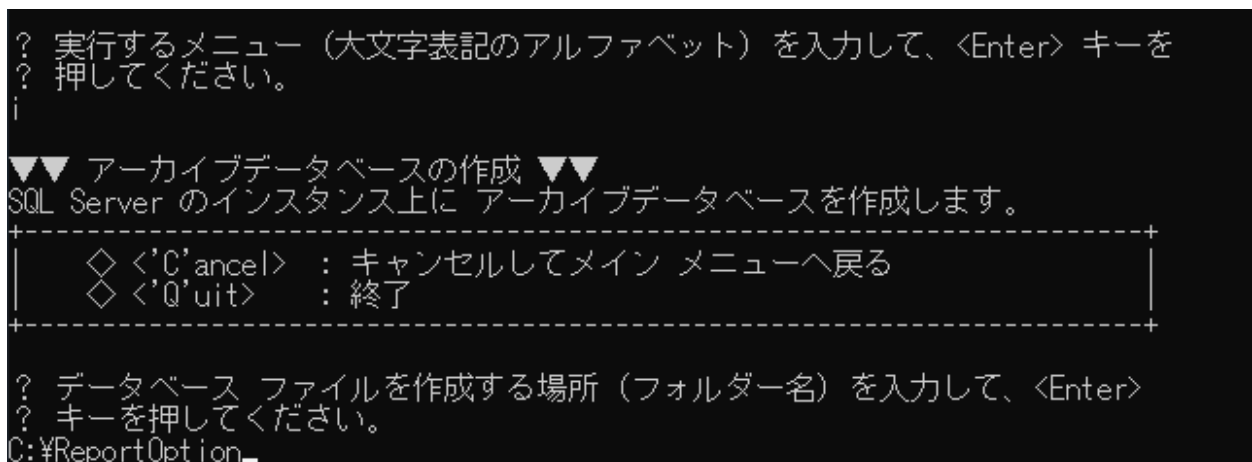
(3) アーカイブデータベースの新規構築

1. スタートメニューより、"BOM for Windows 8.0"の"BOM 8.0 アーカイブデータベース管理メニュー"を選択します。
2. "BOM 8.0 アーカイブデータベース管理メニュー"が起動します。
 - BOMアーカイブデータベース管理メニューを起動した際、コンソール画面に設定されたフォントの種類によって罫線を使用した表（メニュー）の表示が乱れる場合があります。これは表示のみに影響し、BOMアーカイブデータベース管理メニューの動作には問題ありません。

3. 「アーカイブデータベースの作成」を実行するため、「I」キー、「Enter」キーと続けて押下します。



4. データベースファイルの作成場所を指定し、「Enter」キーを押下します。



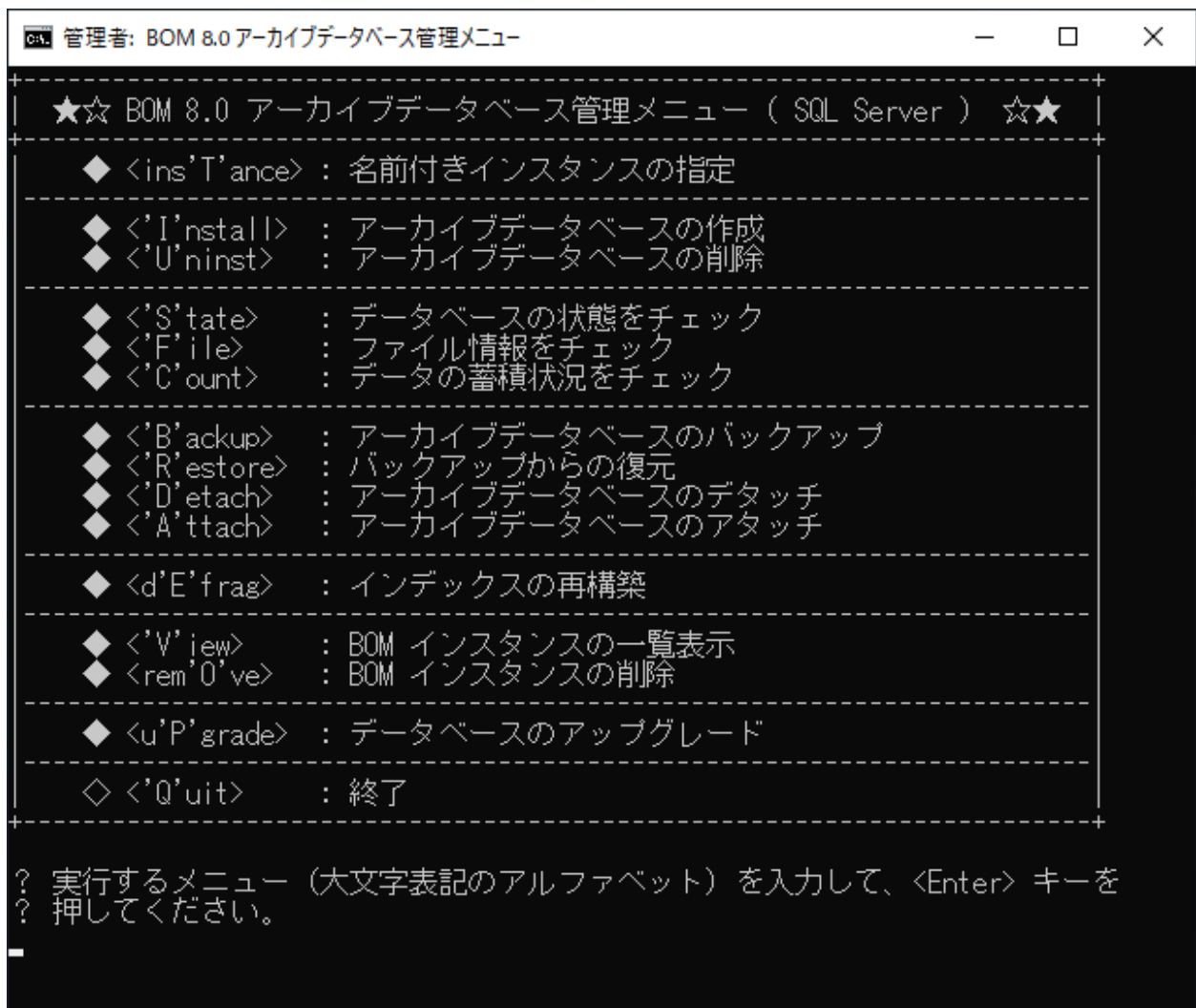
5. アーカイブデータベースの作成が完了すると「スクリプトは正常に終了しました。」と表示されます。
任意のキーを押してアーカイブデータベース管理メニューに戻ります。

4. アーカイブデータベースのアップグレード

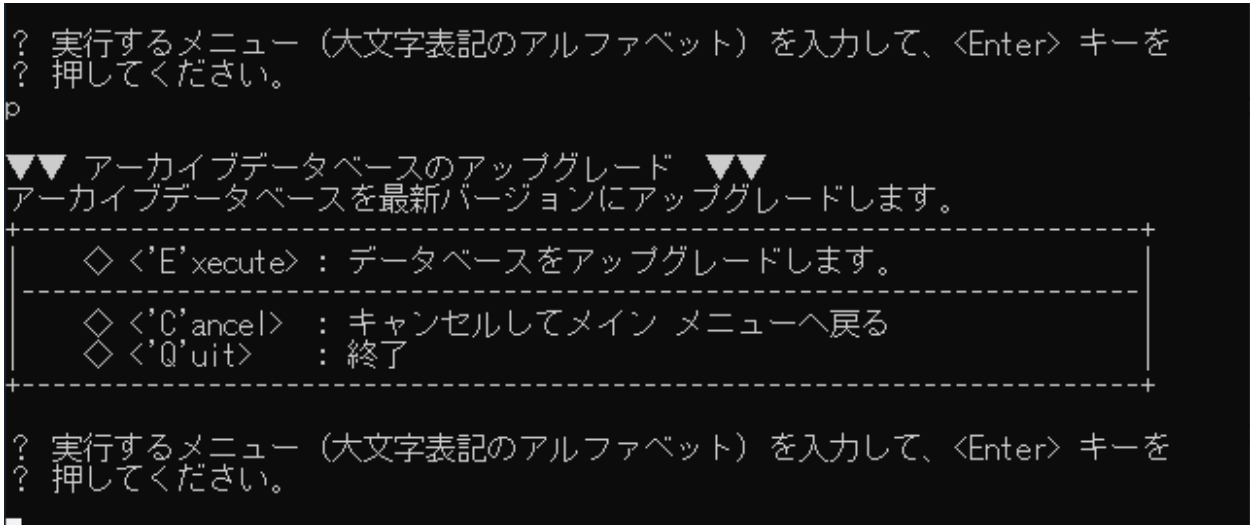
新規にアーカイブデータベースを構築した場合、アップグレードを実施する必要はありません。

BOM 6.0 (SRなし～SR2)、BOM 7.0 (SRなし～SR4) や、BOM 8.0 (SRなし、SR1) で使用していたアーカイブデータベースを継続して使用する場合は、アップグレードが必要です。

- 以下の手順は必要な作業項目の概要のみを抽出した概略手順です。アーカイブデータベースのアップグレードの詳細については、'BOM for Windows Ver.8.0 アーカイブユーザーズマニュアル'を参照してください。
1. スタートメニューより、"BOM for Windows 8.0"の"BOM 8.0 アーカイブデータベース管理メニュー"を選択します。
 2. "BOM 8.0 アーカイブデータベース管理メニュー"が起動します。
 - BOMアーカイブデータベース管理メニューを起動した際、コンソール画面に設定されたフォントの種類によって罫線を使用した表(メニュー)の表示が乱れる場合があります。これは表示のみに影響し、BOMアーカイブデータベース管理メニューの動作には問題ありません。
 3. 「データベースのアップグレード」を実行するため、"P"キー、"Enter"キーと続けて押下します。



4. "E"キー、"Enter"キーと続けて押し、アーカイブデータベースのアップグレードを実行します。



5. アーカイブデータベースのアップグレードが完了すると「スクリプトは正常に終了しました。」と表示されます。

任意のキーを押してアーカイブデータベース管理メニューに戻ります。

- アップグレード実行時の表示内容は、アップグレード元アーカイブデータベースのバージョンにより異なります。

5. アーカイブサービスの導入

監視コンピューターのデータをアーカイブデータベースに蓄積するためには、以下の手順に沿って監視コンピューターにアーカイブサービスを導入する必要があります。

作業にあたっては管理者権限が必要です。管理者権限を持つアカウントにてログオンの上、作業を行ってください。

- 以降の手順は必要な作業の概要を抽出した概略手順です。アーカイブサービスの詳細な導入手順については、'BOM for Windows Ver.8.0 アーカイブユーザーズマニュアル'を参照してください。

(1) アーカイブサービスの新規インストール

監視コンピューターに、まだBOM 8.0を導入していない場合、以下の手順でBOM監視サービスとともに、アーカイブサービスを新規インストールできます。

1. BOM 8.0のインストールパッケージに格納されている"autorun.hta"を実行し、インストールランチャーを起動します。
2. "BOM 8.0 のインストール"の直下にある"基本製品"をクリックし、セットアップウィザードを起動します。
3. "セットアップタイプ"画面まで進め、"すべて"または"カスタム"を選択して[次へ]ボタンをクリックします。
4. "カスタム"を選択した場合は、"監視サービス"ツリー以下の"アーカイブサービス"のアイコンをクリックして"この機能をローカルのハードディスクドライブにインストールします。"を選択し、必要に応じて他の機能の追加やインストール先の変更を行った上で[次へ]ボタンをクリックします。
5. 以降はセットアップウィザードに従い、BOM 8.0のインストールを完了します。
6. 続けて'[アーカイブデータベースへの接続設定](#)'の手順を実行し、アーカイブデータベースへの接続を完了します。

(2) アーカイブサービスの追加インストール

すでにBOM監視サービスなどがインストールされているコンピューターにアーカイブサービスをインストールする場合は、以下の手順で追加インストールを行ってください。

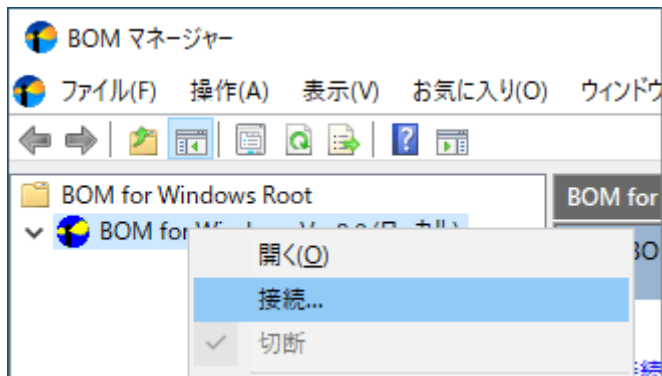
1. BOM 8.0のインストールパッケージに格納されている"autorun.hta"を実行し、インストールランチャーを起動します。
2. "BOM 8.0 のインストール"の直下にある"基本製品"をクリックし、セットアップウィザードを起動します。
3. プログラムの保守"画面まで進め、"変更"ラジオボタンが有効になっていることを確認して[次へ]ボタンをクリックします。
4. "カスタムセットアップ"画面で"アーカイブサービス"のアイコンをクリックし、"この機能をローカルのハードディスクドライブにインストールします。"を選択して[次へ]ボタンをクリックします。
5. 以降はセットアップウィザードに従い、"アーカイブサービス"のインストールを完了します。
6. 続けて'[アーカイブデータベースへの接続設定](#)'の手順を実行し、アーカイブデータベースへの接続を完了します。

(3) アーカイブデータベースへの接続設定

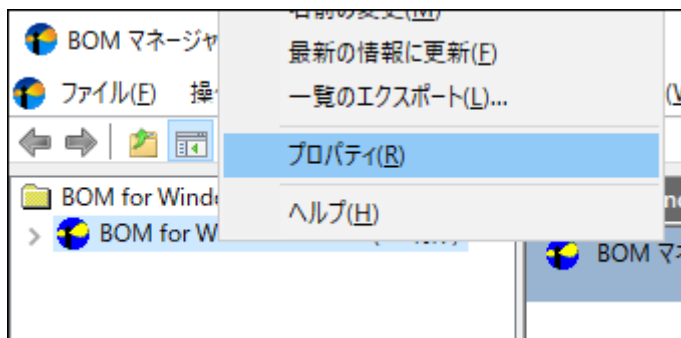
アーカイブサービスのインストール後、BOM マネージャーよりアーカイブデータベースを指定し、監視データを蓄積するよう構成する必要があります。

1. スタートメニューより、"BOM for Windows 8.0"の"BOM 8.0 マネージャー"を選択します。

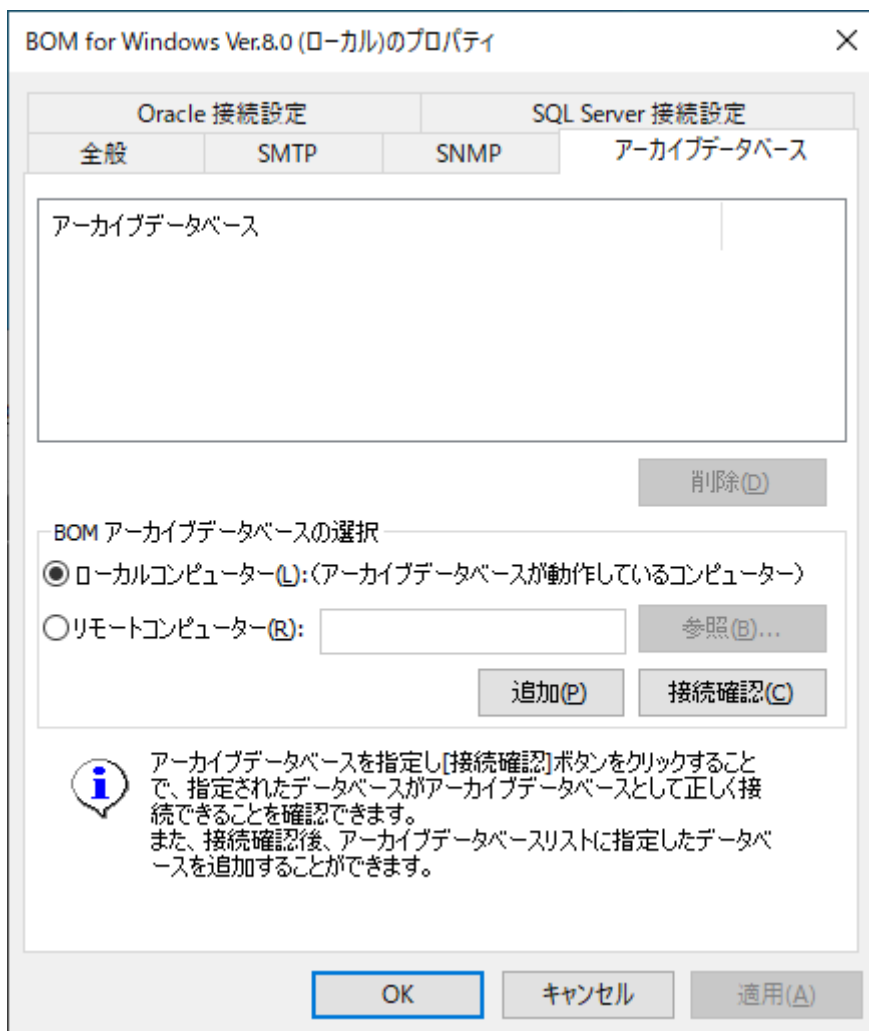
2. BOM マネージャーのスコープペインより"BOM for Windows Ver.8.0 (ローカル)"を選択し、右クリックメニューから"接続"をクリックして監視コンピューターに接続します。



3. スコープペインより"BOM for Windows Ver.8.0 (ローカル)"を選択し、右クリックメニューから"プロパティ"をクリックします。

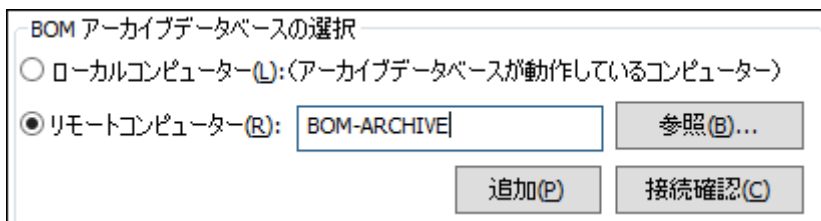


4. 「アーカイブデータベース」タブを選択します。



5. "BOM アrchiveデータベースの選択"フィールドで、接続するArchiveデータベースを指定します。
Archiveデータベースがローカルコンピューター上に存在する場合は"ローカルコンピューター"ラジオボタン、Archiveデータベースがリモートコンピューター上に存在する場合は"リモートコンピューター"ラジオボタンを選択してください。

- "リモートコンピューター"を選択した場合、構築したArchiveデータベースのコンピューター名またはIPアドレスを入力します。

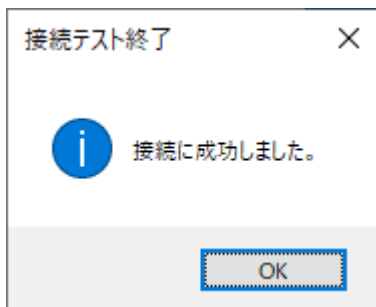


BOM Archiveデータベースの選択

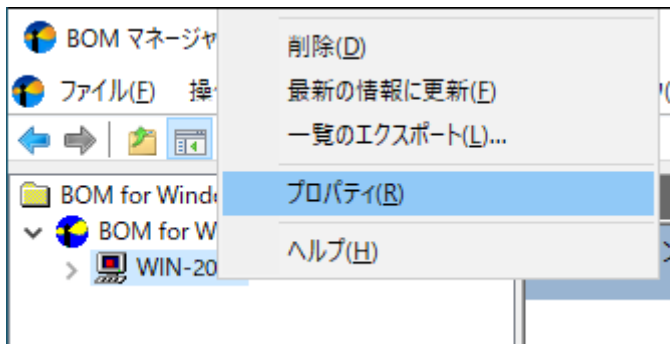
ローカルコンピューター (L): (Archiveデータベースが動作しているコンピューター)

リモートコンピューター (R):

6. [接続確認]ボタンをクリックし、Archiveデータベースへ正常に接続できることを確認します。



7. [追加]ボタンをクリックし、ArchiveデータベースをArchiveデータベースリストに追加します。
8. [OK]ボタンをクリックし、プロパティシートに変更を反映します。
9. スコープペインにてレポートを出力したい監視インスタンスを選択し、右クリックメニューの"プロパティ"をクリックします。



10. 「アーカイブ設定」タブを選択します。

WIN-2022のプロパティ

全般 情報 **アーカイブ設定**

アーカイブサービスの設定

ログをアーカイブへ保存する(E) 監視サービスと連動する(Y)

データベース(U):

アーカイブ間隔(I):

タイムアウト(D): 秒

スケジュール:

その他のアーカイブ項目

ヒストリー(H) 収集されたイベントログ(L)

システム情報(N)

関連付け

すべてのグループ(O)

グループ選択(G)

アーカイブサービスの制御

11. アーカイブデータベースとアーカイブ間隔をプルダウンリストから指定します。

データベース(U):

アーカイブ間隔(I):

12. [OK]ボタンをクリックし、プロパティシートに変更を反映します。
13. 続けて'[レポート用監視テンプレートの適用](#)'を実行し、監視コンピューターのレポートを出力する上で必要な監視項目を追加します。

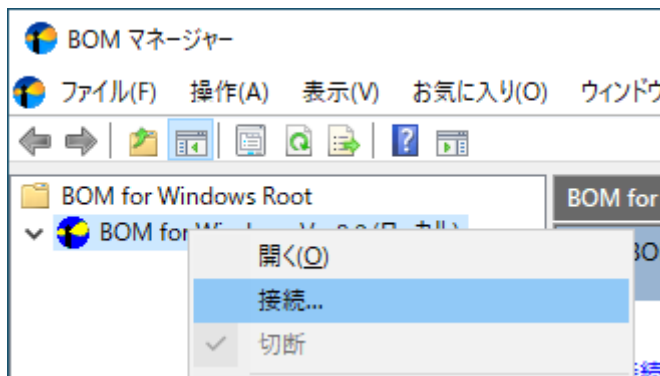
6. レポート用監視テンプレートの適用

アーカイブデータベースへ監視結果を格納するため、専用のテンプレートを使用して監視を実行する必要があります。レポートを出力する対象に紐づいたテンプレートが複数あるため、用途に合わせて必要なテンプレートをインポートしてください。

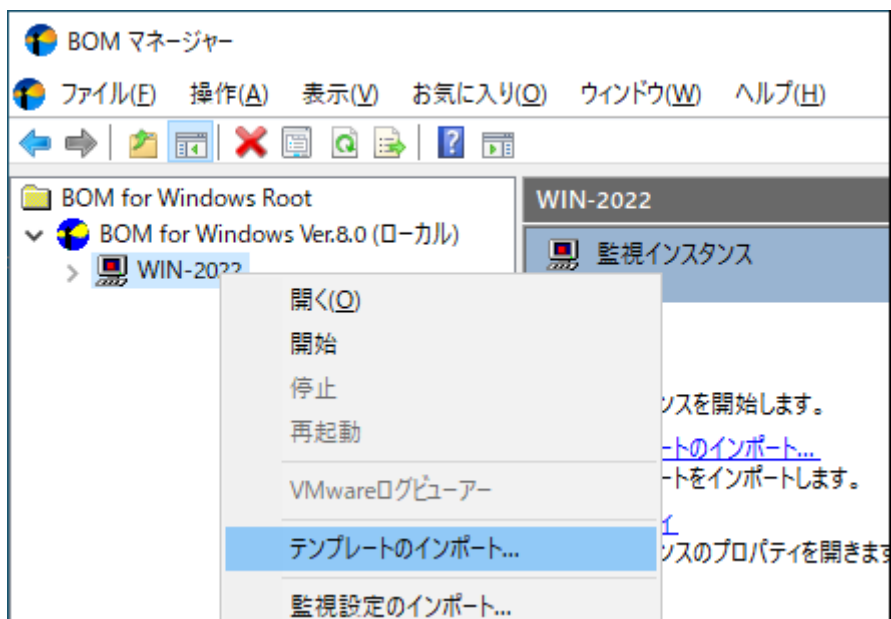
対象の監視テンプレートについては、'BOM Report オプション Ver.8.0 デザインファイル仕様'の各デザイン部分を参照してください。

以下では、テンプレートをインポートする操作の例として「Windows サーバー診断レポート用」テンプレートの適用手順を案内しています。適宜、実際に出力するレポートに対応したテンプレートに置き換えて確認してください。

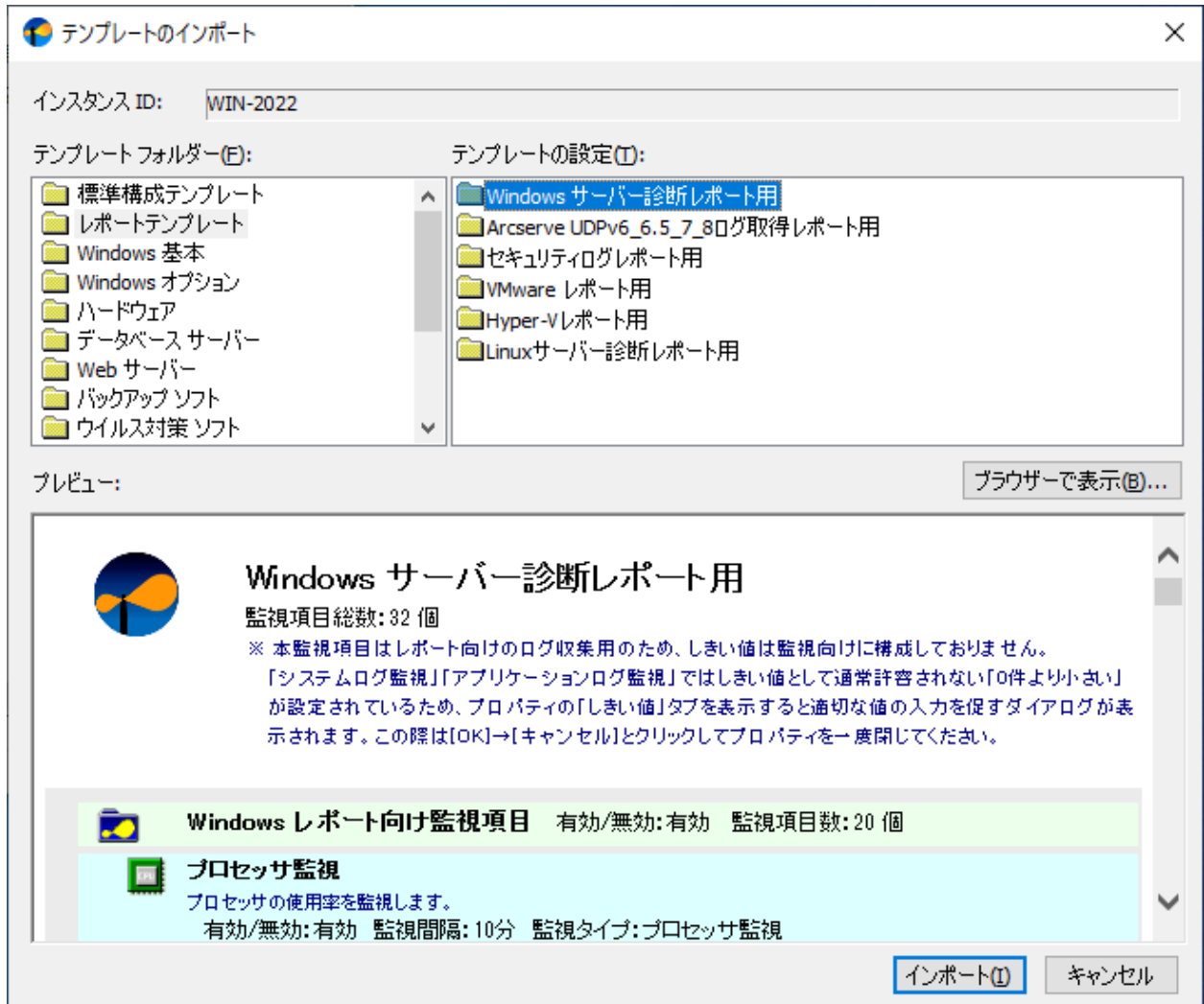
1. スタートメニューより、「BOM for Windows 8.0」の「BOM 8.0 マネージャー」を選択します。
2. BOM マネージャーのスコープペインより「BOM for Windows Ver.8.0 (ローカル)」を選択し、右クリックメニューから「接続」をクリックして監視コンピューターに接続します。



3. スコープペインにて、レポートを出力したいWindows監視インスタンスを選択し、右クリックメニューから「テンプレートのインポート」をクリックします。

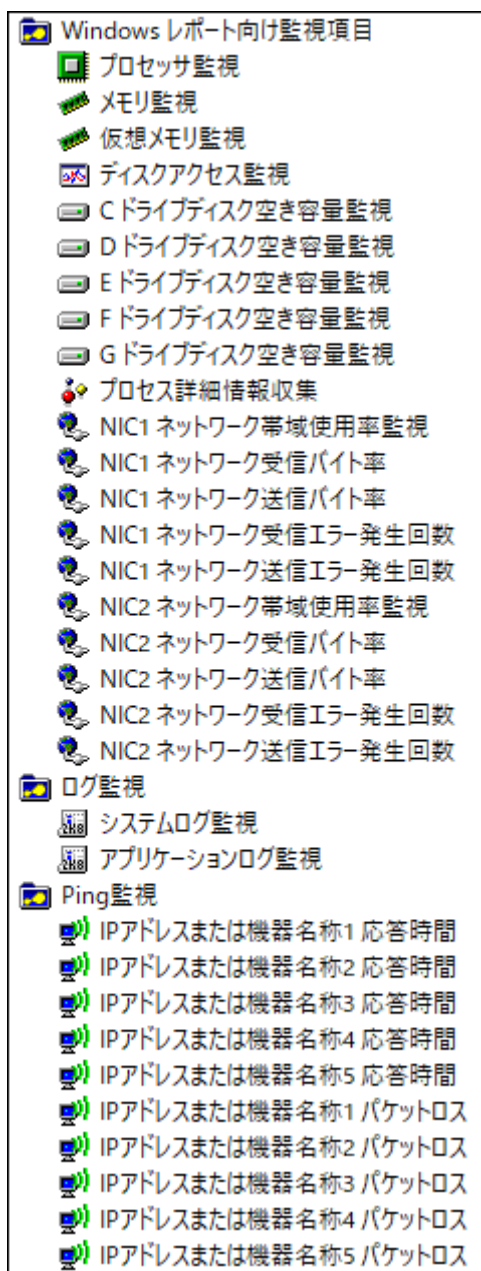


4. "テンプレートフォルダー"から、"レポートテンプレート"、"テンプレートの設定"から、"Windows サーバー診断レポート用"をクリックします。



5. [インポート]ボタンをクリックし、テンプレートをインポートします。
6. スコープペインにて監視グループ"Windowsレポート向け監視項目"、"ログ監視"、"Ping監視"が作成されたことを確認します。

- 監視グループのアイコンが表示されない場合は、監視ノードのアイコンを一度クリックして表示を更新してください。



ネットワーク監視やPing監視は個別に設定をする必要があります。

BOM 8.0の監視設定の変更方法やテンプレートの利用方法などの詳細については、'BOM for Windows Ver.8.0 ユーザー マニュアル'を参照してください。

7. レポートデータベース管理

(1) レポートデータベース管理メニューの新規インストール

BOM 8.0に関するコンポーネントを一切入れていないコンピュータに対して、レポートデータベース管理をインストールする手順は以下のとおりです。

1. BOM 8.0のインストールパッケージに格納されている"autorun.hta"を実行し、インストールランチャーを起動します。
2. メニューから、"レポートデータベース"をクリックし、セットアップウィザードを起動します。
3. "セットアップタイプ"画面まで進め、"標準"または"カスタム"を選択して[次へ]ボタンをクリックします。
4. "カスタム"を選択した場合は、"レポートデータベース管理"がインストール対象となっている（ハードディスクアイコンになっている）ことを確認し、必要に応じて他の機能の追加やインストール先の変更を行った上で[次へ]ボタンをクリックします。
5. 以降はセットアップウィザードに従い、"レポートデータベース管理"のインストールを完了します。

(2) レポートデータベース管理メニューの追加インストール

すでにBOM監視サービスなどがインストールされているコンピュータにレポートデータベース管理メニューをインストールする場合は、以下の手順で追加インストールを行ってください。

1. BOM 8.0のインストールパッケージに格納されている"autorun.hta"を実行し、インストールランチャーを起動します。
2. メニューから、"レポートデータベース"をクリックし、セットアップウィザードを起動します。
3. "プログラムの保守"画面まで進め、"変更"ラジオボタンが有効になっていることを確認して[次へ]ボタンをクリックします。
4. "カスタムセットアップ"画面で"レポートデータベース管理"のアイコンをクリックし、"この機能をローカルのハードディスクドライブにインストールします。"を選択して、[次へ]ボタンをクリックします。
5. 以降はセットアップウィザードに従い、"レポートデータベース管理"のインストールを完了します。

8. Report オプションのインストール

Report オプションは以下のアプリケーションから構成されており、以下の手順でインストールします。

- レポートデータベース設定ウィザード
- レポート出力ウィザード
- ReportETL.exe (レポートデータベース用データ出力モジュール)

(1) Report オプションの新規インストール

BOM 8.0に関するコンポーネントを一切入れていないコンピューターに対して、Report オプションの各アプリケーションをインストールする手順は以下のとおりです。

1. BOM 8.0のインストールパッケージに格納されている"autorun.hta"を実行し、インストールランチャーを起動します。
2. メニューから、"Report オプション"をクリックし、セットアップウィザードを起動します。
3. "セットアップタイプ"画面まで進め、"標準"または"カスタム"を選択して[次へ]ボタンをクリックします。
4. "カスタム"を選択した場合は、"レポート出力ウィザード"がインストール対象となっている（ハードディスクアイコンになっている）ことを確認し、必要に応じて他の機能の追加やインストール先の変更を行った上で[次へ]ボタンをクリックします。
 - レポート出力ウィザードを選択することで、その他のアプリケーションもインストールされます。
5. 以降はセットアップウィザードに従い、Report オプションのインストールを完了します。

(2) Report オプションの追加インストール

すでにBOM監視サービスなどがインストールされているコンピューターにReport オプションの各アプリケーションをインストールする場合は、以下の手順で追加インストールを行ってください。

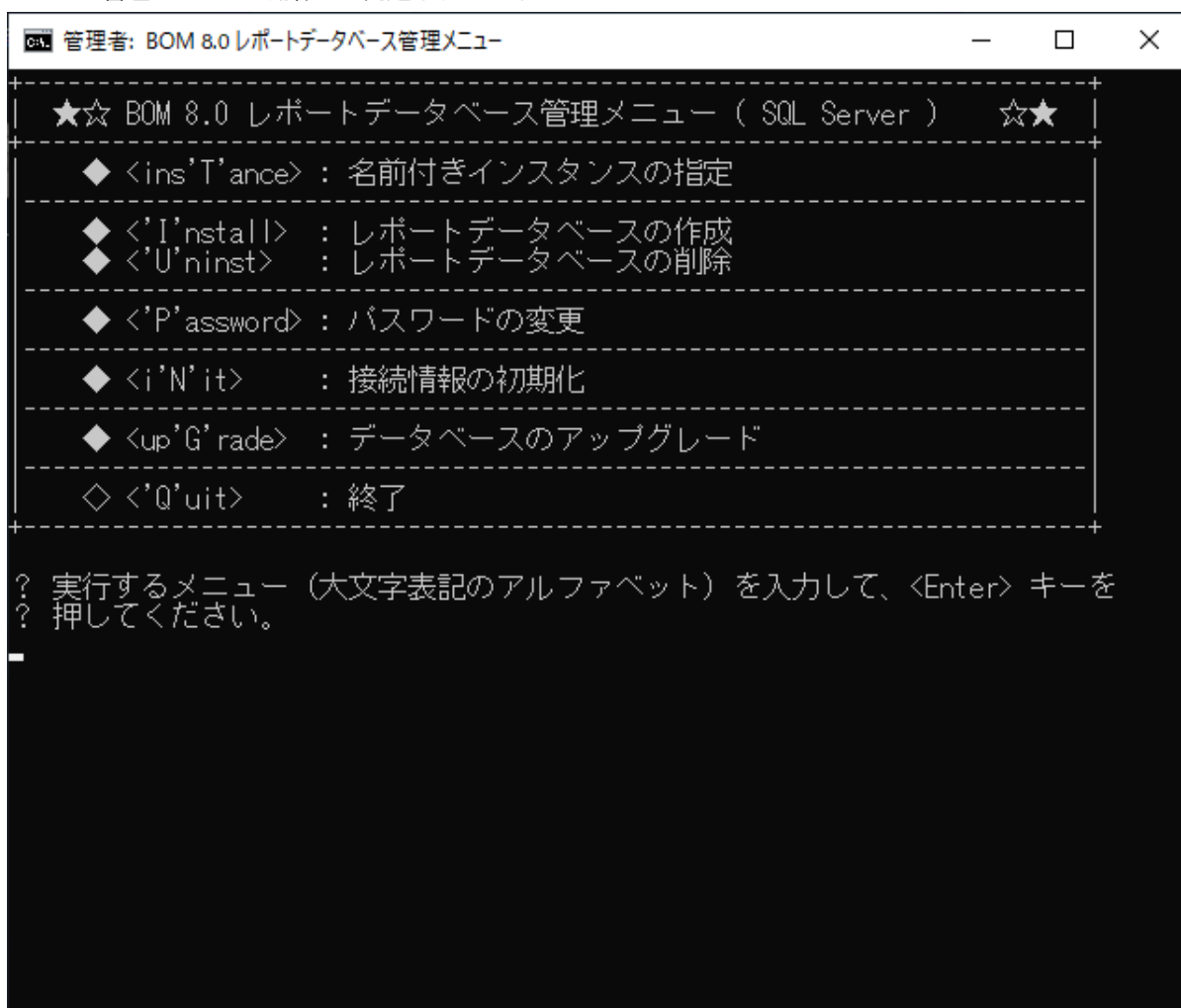
1. BOM 8.0のインストールパッケージに格納されている"autorun.hta"を実行し、インストールランチャーを起動します。
2. メニューから、"Report オプション"をクリックし、セットアップウィザードを起動します。
3. プログラムの保守"画面まで進め、"変更"ラジオボタンが有効になっていることを確認して[次へ]ボタンをクリックします。
4. "カスタムセットアップ"画面で"レポート出力ウィザード"のアイコンをクリックし、"この機能をローカルのハードディスクドライブにインストールします。"を選択して、[次へ]ボタンをクリックします。
 - レポート出力ウィザードを選択することで、その他のアプリケーションもインストールされます。
5. 以降はセットアップウィザードに従い、Report オプションのインストールを完了します。

9. BOM レポートデータベースの作成

レポートを出力するためには、レポートデータベース管理メニューを使用して、別途レポート用のデータベースを作成する必要があります。

(1) "BOM 8.0 レポートデータベース管理メニュー"の起動

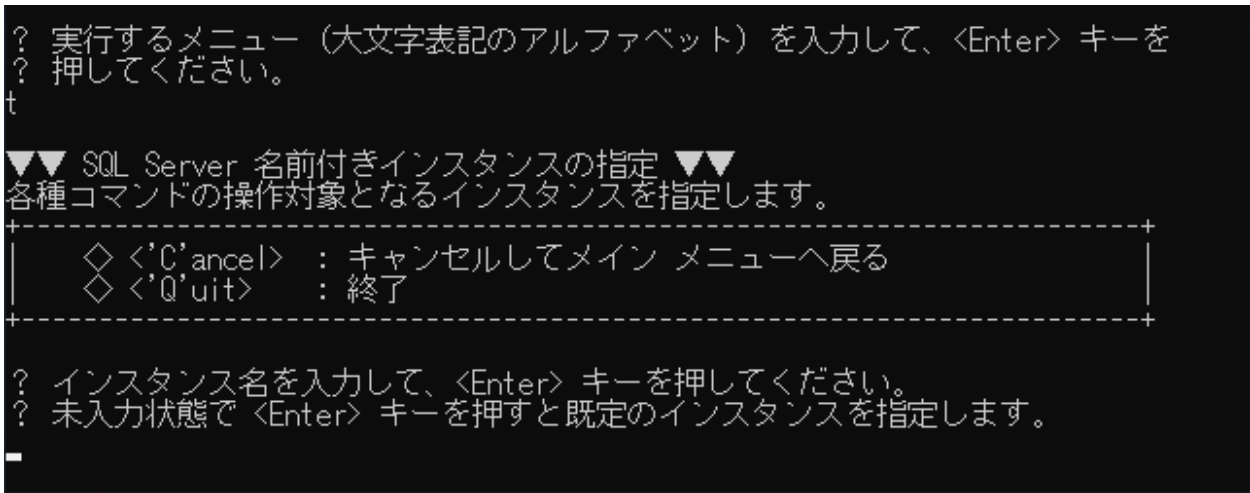
1. スタートメニューより、"BOM for Windows 8.0"の"BOM 8.0 レポートデータベース管理メニュー"を選択します。
2. "BOM 8.0 レポートデータベース管理メニュー"が起動します。
 - BOMレポートデータベース管理メニューを起動した際、コンソール画面に設定されたフォントの種類によって罫線を使用した表（メニュー）の表示が乱れる場合があります。これは表示のみに影響し、BOMレポートデータベース管理メニューの動作には問題ありません。



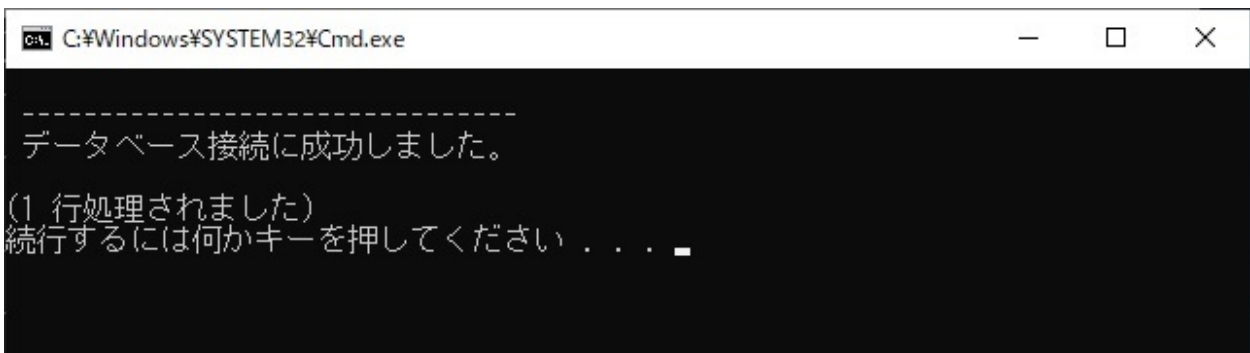
(2) "BOM 8.0 レポートデータベース管理メニュー"の詳細

A. <ins'T'ance> : 名前付きインスタンスの指定

1. BOM レポートデータベース作成時の接続先のSQL Serverのインスタンスの指定するため、"T"キー、"Enter"キーと続けて押下します。

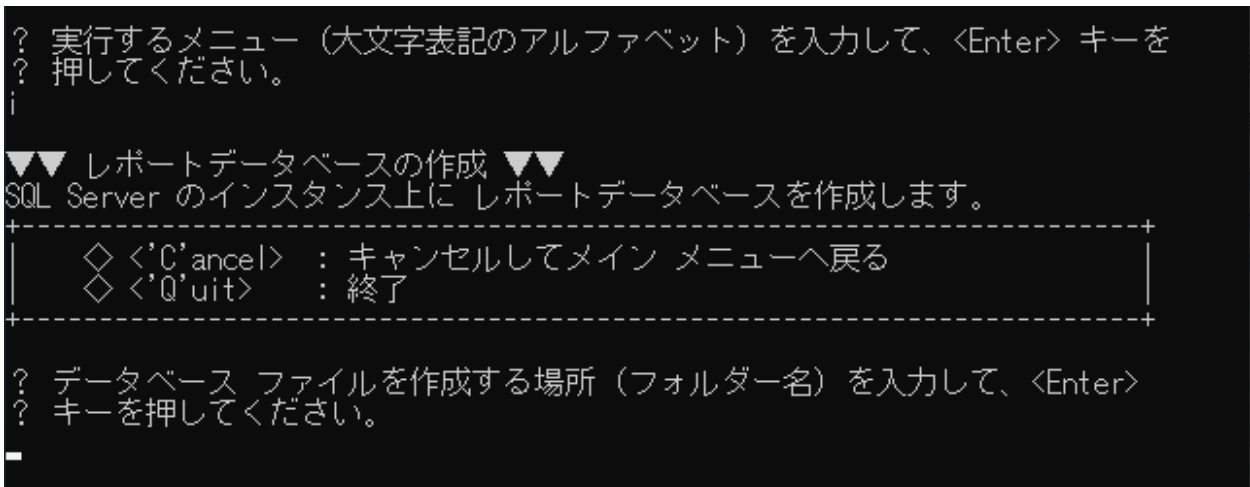


2. 名前付きインスタンスを指定してBOM レポートデータベースを作成する場合は、接続する名前付きインスタンスを指定します。未入力状態で"Enter"キーを押下すると、BOM 8.0は既定のインスタンス" MSSQLSERVER"を自動的に指定します。
3. 指定したインスタンスに接続できると、下記の画面になります。



B. <'I'install> : レポートデータベースの作成

1. BOM レポートデータベースを作成するには、"I"キー、"Enter"キーと続けて押下します。

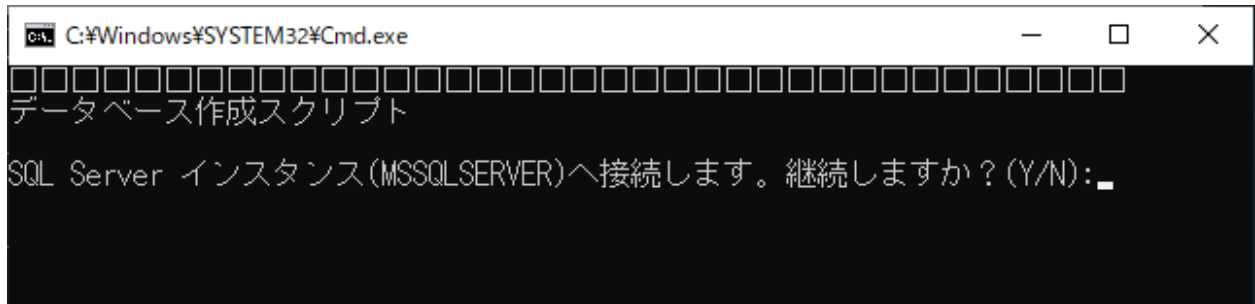


2. BOMレポートデータベースのデータベースファイルを作成する場所（フォルダー名）を絶対パスで入力し、"Enter"キーを押下します。
【絶対パスの入力例】



3. SQL ServerのSQLサービスが起動していない場合には自動で起動します。
4. 接続するSQL Serverのインスタンス名が表示され、インストールを開始するか表示されます。

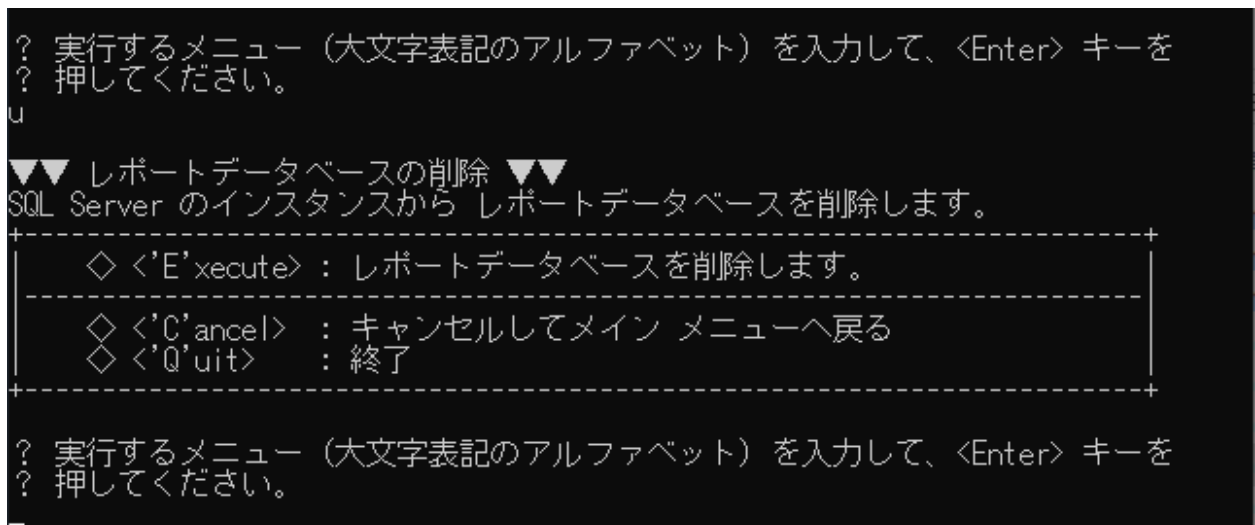
"I"を選択した画面では接続先SQL Serverインスタンス名（カッコ内）に、“既定のインスタンス（MSSQLSERVER）”または、'名前付きインスタンスの指定''で名前付きインスタンスが指定されている場合は指定したインスタンス名が表示されます。



5. "Y"を入力し、"Enter"キーを押下するとデータベースが作成されます。
6. データベースファイルの作成先に指定したフォルダーが存在しない場合には作成確認のメッセージが表示されます。
"Y"を入力し、"Enter"キーを押下するとフォルダーを作成し、以降の作業を継続します。
7. "スクリプトは正常に終了しました。"と表示されればBOMレポートデータベースは正常に作成されています。何かキーを押下すると元のメニューに戻ります。

C. <'U'ninst> : レポートデータベースの削除

1. BOMレポートデータベースを削除するために、"U"キー、"Enter"キーと続けて押下します。



2. "E"を入力し、"Enter"キーを押下します。
3. 削除するSQL Serverのインスタンス名が表示されます。継続するとレポートデータベースが削除されます。
4. "スクリプトは正常に終了しました。"と表示されればBOMレポートデータベースが正常に削除されています。何かキーを押下すると元のメニューに戻ります。

D. <'P'assword> : パスワードの変更

※ パスワードは初期で"Report6Bom"が設定されています。

1. BOMレポートデータベースへ接続する際に使用するパスワードを変更する場合、"P"キー、"Enter"キーと続けて押下します。

```
? 実行するメニュー（大文字表記のアルファベット）を入力して、<Enter> キーを
? 押してください。
p
▼▼ パスワードの変更 ▼▼
SQL Server のパスワードを変更します。
+-----+
|   ◇ <'E'xecute> : パスワードを変更します。   |
+-----+
|   ◇ <'C'ancel>  : キャンセルしてメイン メニューへ戻る |
|   ◇ <'Q'uit>   : 終了                             |
+-----+
? 実行するメニュー（大文字表記のアルファベット）を入力して、<Enter> キーを
? 押してください。
```

2. "E"を入力し、"Enter"キーを押下します。
3. パスワードを変更するSQL Serverのインスタンス名が表示されます。継続するとパスワード変更へと移行します。
4. 現在のパスワードを入力し、"Enter"キーを押下します。
5. 新しいパスワードを入力し、"Enter"キーを押下します。
6. 新しいパスワード（確認）を入力し、"Enter"キーを押下します。
7. パスワード変更処理が動作し、"スクリプトは正常に終了しました。"と表示されれば正常に処理が完了しています。何かキーを押下すると元のメニューに戻ります。

E. <i'N'it> : 接続情報の初期化

レポートデータベースはデータベースに対して接続を行った際、排他処理が行われます。しかし何かしらの理由で接続が途切れてしまった場合、排他制御の状態が残ったままになります。本メニューはこのような排他制御が残ったままの状態を開放する際に使用します。

1. BOMレポートデータベースの接続情報を初期化するために、"N"キー、"Enter"キーと続けて押下します。

```
? 実行するメニュー（大文字表記のアルファベット）を入力して、<Enter> キーを
? 押してください。
n
▼▼ 接続情報の初期化 ▼▼
SQL Server の接続情報を初期化します。
+-----+
|   ◇ <'E'xecute> : 接続情報を初期化します。   |
+-----+
|   ◇ <'C'ancel>  : キャンセルしてメイン メニューへ戻る |
|   ◇ <'Q'uit>   : 終了                             |
+-----+
? 実行するメニュー（大文字表記のアルファベット）を入力して、<Enter> キーを
? 押してください。
```

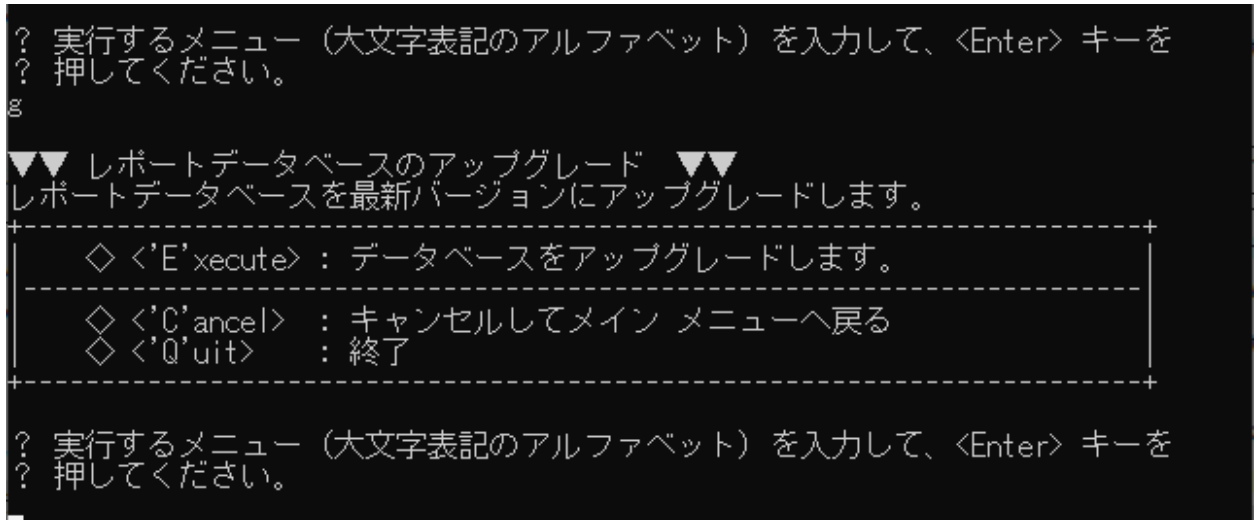
2. "E"を入力し、"Enter"キーを押下します。
3. 接続状態を強制解除するSQL Serverのインスタンス名が表示されます。継続すると接続状態を強制解除する処理へと移行します。
4. "スクリプトは正常に終了しました。"と表示されれば、接続状態の強制解除処理は成功です。何かキーを押下すると元のメニューに戻ります。

F. <up'G'rade> : データベースのアップグレード

レポートデータベースのアップグレードは、BOM 7.0 SRなしの環境で作成したレポートデータベースを継続して使用する場合に実施する必要があります。

※ BOM 7.0 SR1～SR4、BOM 8.0 SRなし、およびSR1で作成されたレポートデータベースは、アップグレードの必要がありません。

1. BOMレポートデータベースのアップグレードを行うには、"G"キー、"Enter"キーと続けて押下します。



2. データベースをアップグレードするため、"E"を入力し、"Enter"キーを押下します。
3. SQL Serverへの接続要求が表示されます。"Y"を入力し、"Enter"キーを押下します。
4. 自動でアップグレード処理が起動します。
"スクリプトは正常に終了しました。"と表示されれば、処理は完了しています。何かキーを押下すると元のメニューに戻ります。

G. <'Q'uit> : 終了

レポートデータベース管理メニューを終了する際は、"Q"キー、"Enter"キーと続けて押下します。

10. SQL Server Express Editionへのインストールについて

- 導入するコンポーネントについて

SQL Server Express Editionを導入する場合、管理用GUIが付属しているSQL Server Express with Advanced Services、またはMicrosoft SQL Server Express with Toolsを推奨します。

- レポートデータベース管理メニューのエラーについて

SQL Server Express EditionではSQL Server Agentサービスが利用できないため、レポートデータベース管理メニューを使用する際、SQL Server Agentサービスの起動エラーメッセージが出力される場合がありますが、仕様上の制限事項です。メッセージは無視してください。

- SQL Server Express Editionの注意事項

- SQL Server Agentの有無

SQL Server Express Editionでは、SQL Server Agentは作成されますが無効になっており、さらに手動/自動に切り換えても起動しません。

(SQL Server Agentを起動しようとした際に出力されるエラーメッセージが異なります。)

- 既定のインスタンス

SQL Server Express Editionでは、既定の設定で"**名前付きインスタンスSQLExpress**"を作成するようになっています。

既定のインスタンスを選択しても"名前付きインスタンスSQLExpress"を作成するようになっているため注意が必要です。"名前付きインスタンスMSSQLSERVER"を作成することで、"既定のインスタンス"を作成できます。

- 接続プロトコルについて

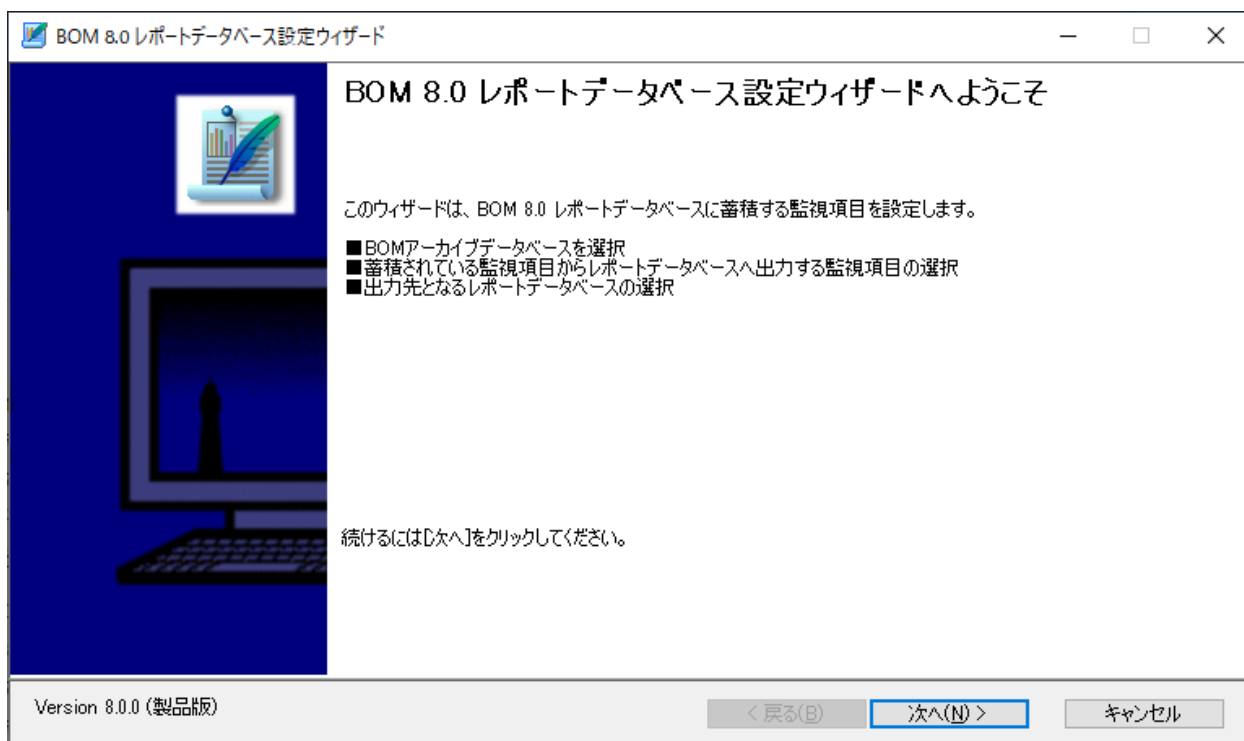
SQL Server Express Editionを利用しレポートデータベースを作成する際はSQL Server Express EditionのTCP/IPを"有効"に設定する必要があります。

11. BOM レポートデータベース設定ウィザードの起動と実行

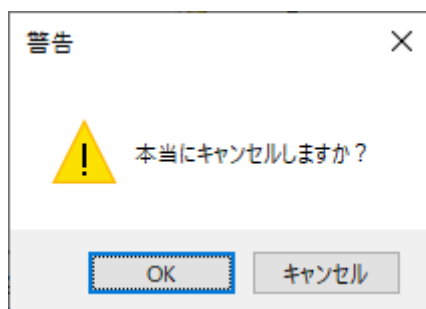
Report オプションは、アーカイブデータベースからレポートを出力するために必要な情報を構築したレポートデータベースに蓄積し、そこからレポートを出力します。レポートデータベース設定ウィザードでは、レポートデータベースに蓄積する監視項目の設定が行えます。

(1) レポートデータベース設定ウィザードの起動

1. 'Report オプションのインストール'を実行したコンピューター上で、スタートメニューより"BOM for Windows 8.0"の"BOM 8.0 レポートデータベース設定ウィザード"を選択します。
2. レポートデータベース設定ウィザードが起動します。



レポートデータベースウィザードでは、[次へ]ボタンをクリックすることで次の画面に進み、[戻る]ボタンをクリックすることで前の画面に戻ります。さらに[キャンセル]ボタンをクリックすることで、レポートデータベース設定ウィザードを終了することができます。

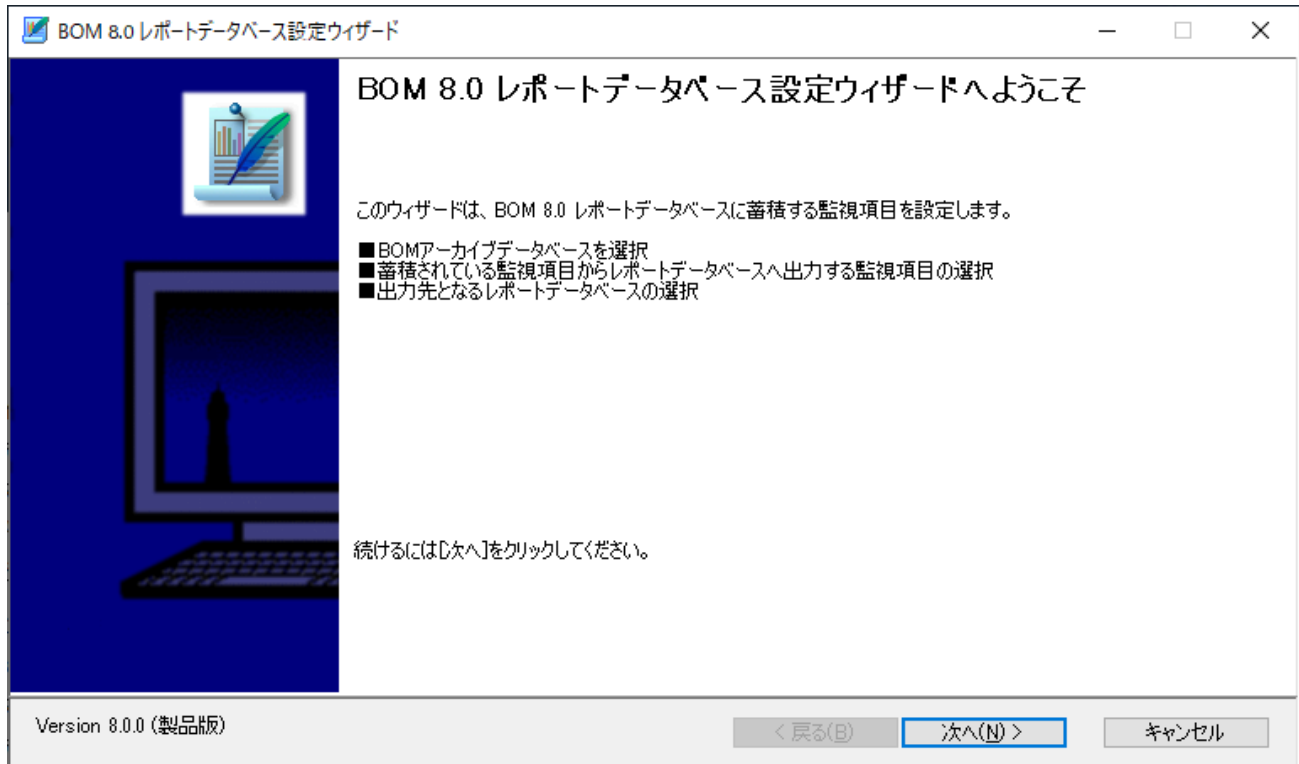


(2) レポートデータベース設定ウィザードの実行

レポートデータベース設定ウィザードの各画面について説明します。

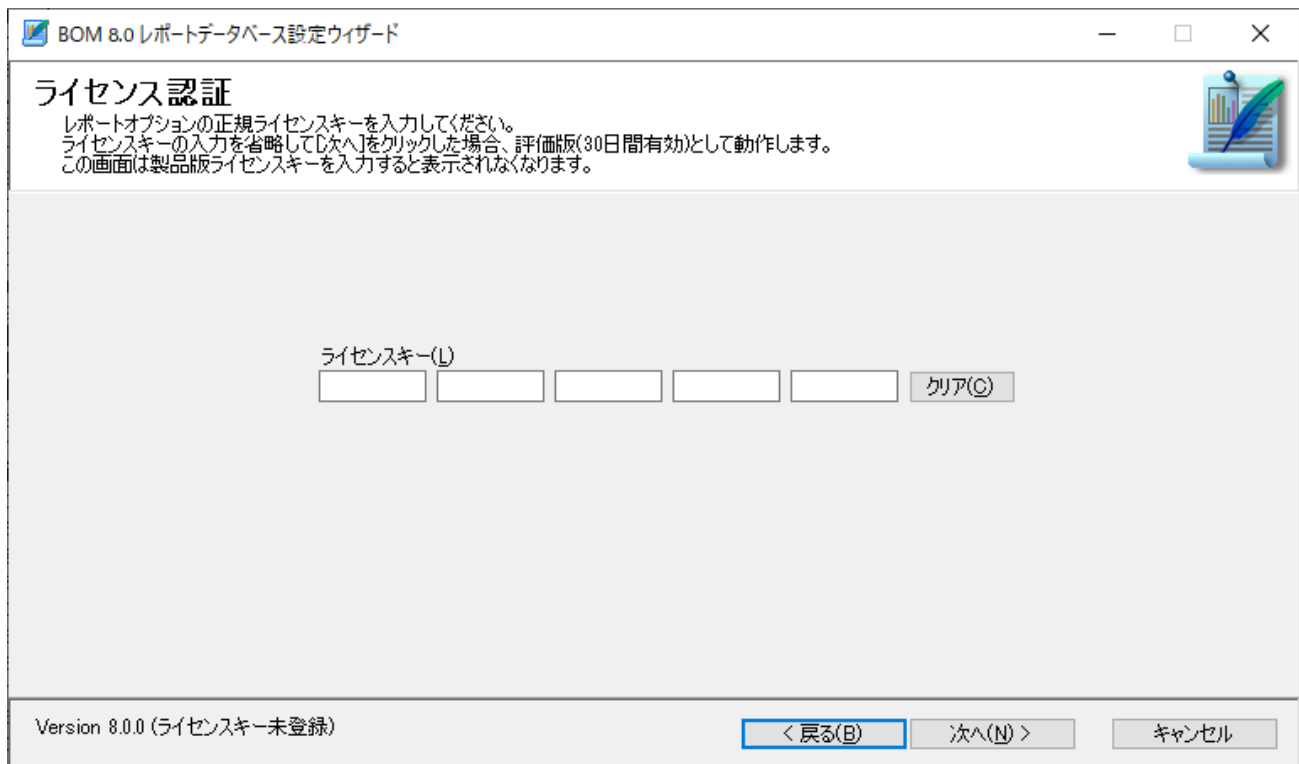
A. ようこそ

レポートデータベース設定ウィザードを起動すると、以下のようこそ画面が表示されます。



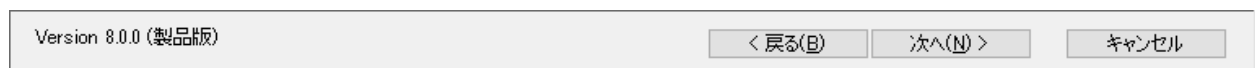
B. ライセンス認証

ライセンスキーが未入力の場合、ここでライセンス認証画面が表示されます。



○ "ライセンスキー"欄

"ライセンスキー"欄に製品版のライセンスキーを入力することで、レポートデータベース設定クライアントにライセンスキーが登録されます。次回以降のレポートデータベース設定ウィザード使用時には、製品版として認識され、ライセンス認証画面が表示されなくなります。



"ライセンスキー"欄を空白のままにした場合は、評価版ライセンスキーが登録されます。評価版の使用期限は30日間となっており、それ以降は製品版のライセンスキーを登録しない限り利用できなくなります。

なお、評価版の有効期限はウィザードの画面下に表示されます。

Version 8.0.0 (評価版)
有効期限 2022/04/10

< 戻る(B)

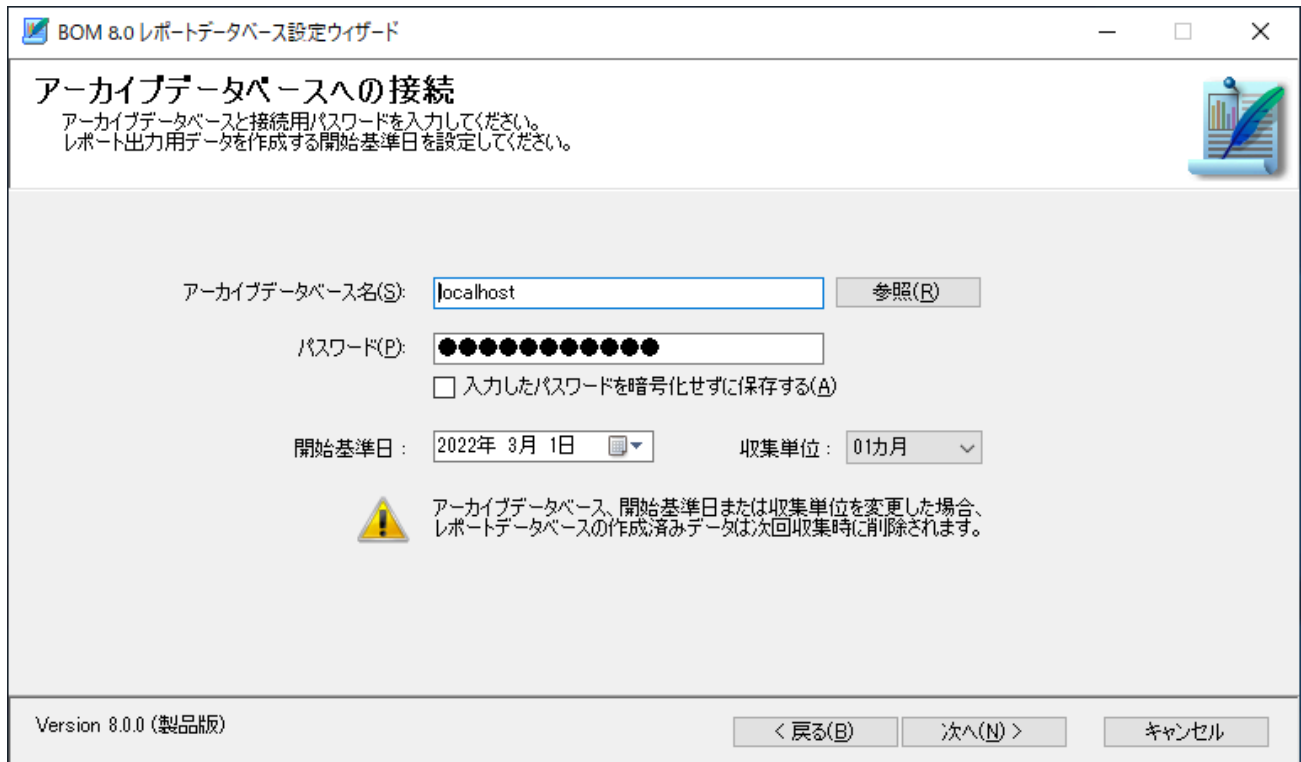
次へ(N) >

キャンセル

C. アーカイブデータベースへの接続

アーカイブデータベースへの接続画面では、レポート出力対象のコンピューターがデータを蓄積しているアーカイブデータベースへ接続します。

- BOM アーカイブデータベースの詳細については、'BOM for Windows Ver.8.0 アーカイブユーザーズマニュアル'を参照してください。



- "アーカイブデータベース名"欄

"アーカイブデータベース"欄には、アーカイブデータベースのコンピューター名またはIPアドレスを入力します。SQL Serverの名前付きインスタンスを使用している場合は以下のように入力してください。

コンピューター名¥インスタンス名

設定したアーカイブデータベースはレポートクライアントに保存され、次回以降のレポートデータベース設定ウィザード使用時には自動で入力されます。

- [参照]ボタン

アーカイブデータベースをネットワーク一覧から選択したい場合、[参照]ボタンをクリックします。

- "パスワード"欄

"パスワード"欄には、アーカイブデータベースへの接続パスワード（既定では"**Bom6Archive**")を入力します。

- "入力したパスワードを暗号化せずに保存する"チェックボックス

"入力したパスワードを暗号化せずに保存する"にチェックを入れると、入力したパスワードを暗号化せずに設定ファイル内に保存します。入力したパスワードの暗号化する場合は、チェックボックスのチェックをはずします。

- "開始基準日"欄

レポート出力用データのデータ開始基準日を指定します。既定値として、開始基準日には、起動した日付の6か月前の月初が表示されます。

- "収集単位"欄

レポート出力用データを作成する際の収集単位を"1ヶ月" "3ヶ月" "6ヶ月"から選択します。
すでに作成済みのレポートデータベースがあった場合には、次回収集時に削除されます。

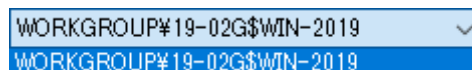
D. 出力設定

レポートデータベースに出力する監視項目および出力テーブル名を指定します。

※ 標準のレポートを出力する際に必要なテーブルはデフォルトで登録されています。削除や変更をした場合は改めて追加する必要があるため注意してください。

- "監視インスタンス"プルダウンメニュー

"監視インスタンス"プルダウンメニューは、レポートデータベースに出力する監視項目を選択する際、該当データが蓄積されている監視インスタンスを指定します。



- 監視項目選択画面

監視インスタンス"プルダウンメニューで指定したインスタンスに紐づいている監視グループおよび監視項目の一覧が表示されます。

出力対象としたい監視項目を選択後、[追加]ボタンをクリックすることにより、右側の出力対象一覧にレコードが追加されます。監視グループを選択し、[追加]ボタンをクリックした場合、監視グループに含まれる監視項目すべてが右側の出力対象一覧に追加されます。

監視インスタンスを選択して[追加]ボタンをクリックした場合、監視インスタンスに含まれるすべての監視グループ、監視項目が右側の出力対象一覧に追加されます。

- "監視結果のサンプリング周期"プルダウン

監視結果のサンプリング周期をプルダウンメニューから選択します。1時間、3時間、6時間、12時間、24時間から選択が可能です。

出力テーブル名	監視種別	監視オブジェクト	監視値名
PerfMemCBytesInUse	Performan...	Memory	% Committed Bytes I...
PerfNICBytesReceived	Performan...	Network Interface	Bytes Received/sec
PerfNICBytesSent	Performan...	Network Interface	Bytes Sent/sec
PerfNICPacketRcvErr	Performan...	Network Interface	Packets Received Er...
PerfNICPacketOutbErr	Performan...	Network Interface	Packets Outbound E...
PerfNetworkAdapterByt...	Performan...	Network Adapter	Bytes Received/sec
PerfNetworkAdapterByt...	Performan...	Network Adapter	Bytes Sent/sec
PerfNetworkAdapterPac...	Performan...	Network Adapter	Packets Received Er...
PerfNetworkAdapterPac...	Performan...	Network Adapter	Packets Outbound E...
PerfPDiskCurDiskQueLe...	Performan...	PhysicalDisk	Current Disk Queue ...
HPVHealthCritical	Performan...	Hyper-V Virtual Mac...	Health Critical
HPVHealthOK	Performan...	Hyper-V Virtual Mac...	Health Ok
HPVLogicalProcessor	Performan...	Hyper-V Hypervisor ...	% Total Run Time

監視結果のサンプリング周期: 01時間

- 追加されたテーブルの"出力テーブル名"は空白状態で登録されます。必要なテーブル名については、'BOM Reportオプション Ver.8.0 デザインファイル仕様'の各レポート部分を参照してください。

E. レポートデータベース設定

"レポートデータベース接続"画面では、"出力設定"で指定した各種データの取り込み先レポートデータベースを指定します。

レポートデータベース設定
レポートデータベースに接続するための情報を設定し、[次へ]をクリックしてください。

レポートデータベース名(S): localhost [参照(B)]

パスワード(P): ●●●●●●●●
 入力したパスワードを暗号化せずに保存する(A)

収集単位: 1か月 [01件] 1か月分のレポートデータを保持します。

該当のデータベースに異なる設定が存在する場合、作成済みレポートデータは次回実行時に削除されます。

Version 8.0.0 (製品版) [戻る(B)] [次へ(N)] [キャンセル]

- "レポートデータベース名"欄

"レポートデータベース"欄には、レポートデータベースを構築したコンピューター名またはIPアドレスを入力します。SQL Serverの名前付きインスタンスを使用している場合には以下のように入力してください。

コンピューター名¥インスタンス名

- [参照]ボタン

レポートデータベースをネットワーク一覧から選択したい場合、[参照]ボタンをクリックします。

- "パスワード"欄

"パスワード"欄には、レポートデータベースへの接続パスワード（既定では"Report6Bom"）を入力します。

- "入力したパスワードを暗号化せずに保存する"チェックボックス

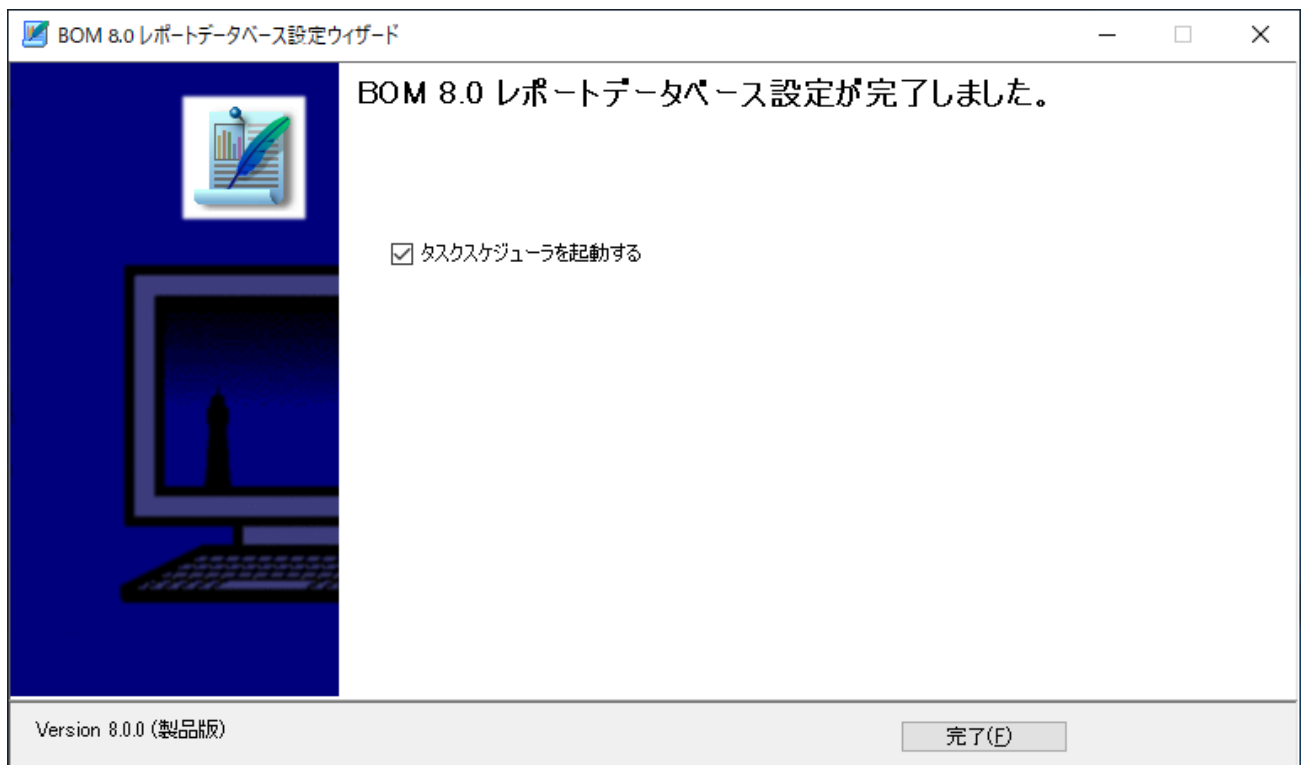
チェックボックス"入力したパスワードを暗号化せずに保存する"にチェックを入れると、入力したパスワードを暗号化せずに設定ファイル内に保存します。入力したパスワードの暗号化する場合は、チェックボックスのチェックをはずします。

- "収集単位"欄

レポートデータベースに蓄積させるデータ量を"1件"、"3件"、"6件"、"12件"から選択します。

F. 設定完了

レポートデータベースの設定が完了すると、以下の画面が表示されます。



設定完了後、レポートデータベースヘデータの取り込みを行うために"ReportETL.exe"の実行をタスク登録する必要があります。

以下の場所に格納されている実行ファイルをタスクスケジューラに登録し、最低でも1日1回実行するよう登録してください。

対象ファイル : ReportETL.exe

格納アドレス : "[BOM 8.0 インストールフォルダー]¥SAY Technologies¥BOMW8¥Bin"

※ 既定値では"C:¥Program Files¥SAY Technologies¥BOMW8¥Bin"

第3章 アンインストール

1. アーカイブサービスのアンインストール

1. BOM 8.0のインストールパッケージに格納されている"autorun.hta"を実行し、インストールランチャーを起動します。
2. メニューから、"基本製品"をクリックし、セットアップウィザードを起動します。
3. "プログラムの保守"画面まで進め、"変更"ラジオボタンが有効になっていることを確認して[次へ]ボタンをクリックします。
4. "カスタムセットアップ"画面で"アーカイブサービス"のアイコンをクリックし、"この機能を使用できないようにします。"を選択して、[次へ]ボタンをクリックします。
 - "この機能を使用できないようにします。"を選択すると、機能名の左端にあるアイコンが、ハードディスクから×印に変わります。
5. 以降はセットアップウィザードに従い、"アーカイブサービス"のアンインストールを完了します。

2. アーカイブデータベース

(1) アーカイブデータベースの削除

作成したアーカイブデータベースの削除方法については'BOM for Windows Ver.8.0アーカイブユーザズマニュアル'を参照してください。

(2) アーカイブデータベース管理のアンインストール

1. BOM 8.0のインストールパッケージに格納されている"autorun.hta"を実行し、インストールランチャーを起動します。
2. メニューから、"アーカイブデータベース"をクリックし、セットアップウィザードを起動します。
3. "プログラムの保守"画面まで進め、"変更"ラジオボタンが有効になっていることを確認して[次へ]ボタンをクリックします。
4. "カスタムセットアップ"画面で"アーカイブデータベース管理"のアイコンをクリックし、"この機能を使用できないようにします。"を選択して、[次へ]ボタンをクリックします。
 - "この機能を使用できないようにします。"を選択すると、機能名の左端にあるアイコンが、ハードディスクから×印に変わります。
5. 以降はセットアップウィザードに従い、"アーカイブデータベース管理"のアンインストールを完了します。

3. レポートデータベース

(1) レポートデータベースの削除

作成したレポートデータベースの削除方法については'[レポートデータベースの削除](#)'を参照してください。

(2) レポートデータベース管理のアンインストール

1. BOM 8.0のインストールパッケージに格納されている"autorun.hta"を実行し、インストールランチャーを起動します。
2. メニューから、"レポートデータベース"をクリックし、セットアップウィザードを起動します。
3. "プログラムの保守"画面まで進め、"変更"ラジオボタンが有効になっていることを確認して[次へ]ボタンをクリックします。
4. "カスタムセットアップ"画面で"レポートデータベース管理"のアイコンをクリックし、"この機能を使用できないようにします。"を選択して、[次へ]ボタンをクリックします。
 - "この機能を使用できないようにします。"を選択すると、機能名の左端にあるアイコンが、ハードディスクから×印に変わります。
5. 以降はセットアップウィザードに従い、"レポートデータベース管理"のアンインストールを完了します。

4. Report オプションのアンインストール

Report オプションは以下のアプリケーションから構成されており、以下の手順でまとめてアンインストールすることができます。

- レポートデータベース設定ウィザード
 - レポート出力ウィザード
 - ReportETL.exe (レポートデータベース用データ出力モジュール)
1. BOM 8.0のインストールパッケージに格納されている"autorun.hta"を実行し、インストールランチャーを起動します。
 2. メニューから、"Report オプション"をクリックし、セットアップウィザードを起動します。
 3. "プログラムの保守"画面まで進め、"変更"ラジオボタンが有効になっていることを確認して[次へ]ボタンをクリックします。
 4. "カスタムセットアップ"画面で"レポート出力ウィザード"のアイコンをクリックし、"この機能を使用できないようにします。"を選択して、[次へ]ボタンをクリックします。
 - "この機能を使用できないようにします。"を選択すると、機能名の左端にあるアイコンが、ハードディスクから×印に変わります。
 5. 以降はセットアップウィザードに従い、"レポート出力ウィザード"のアンインストールを完了します。

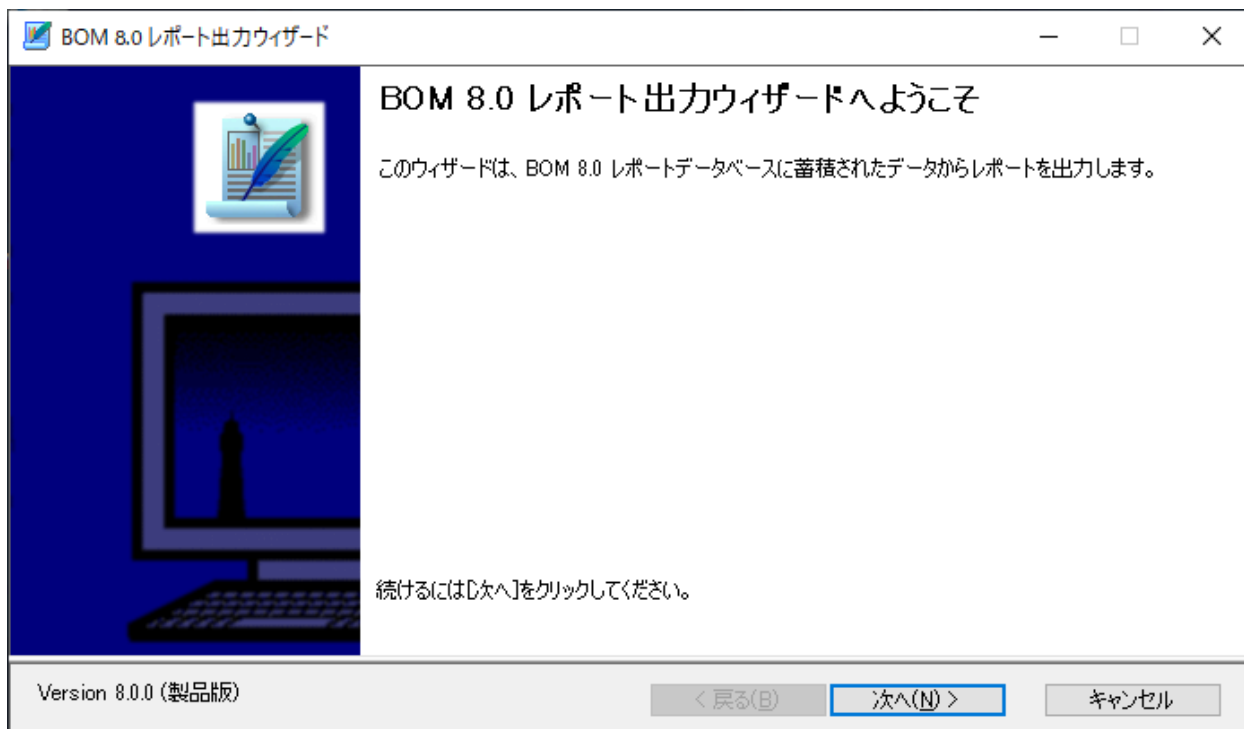
第4章 レポートの出力

1. レポート出力ウィザードの起動

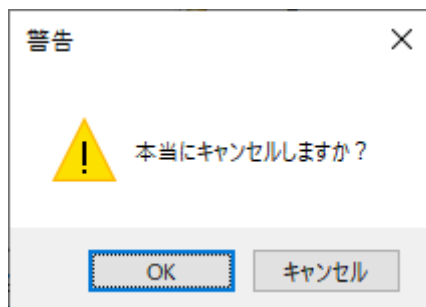
レポート出力ウィザードを使用して、用意されているデザイン毎のレポートを出力します。

レポート出力ウィザードは一般ユーザー権限で実行できます。

1. ['Report オプションのインストール'](#)を実行したコンピューター上で、スタートメニューより"BOM for Windows 8.0"の"BOM 8.0 レポート出力ウィザード"を選択します。
2. レポート出力ウィザードが起動します。



レポート出力ウィザードでは、[次へ]ボタンをクリックすることで次の画面に進み、[戻る]ボタンをクリックすることで前の画面に戻ります。さらに、[キャンセル]ボタンをクリックすることで、レポート出力ウィザードを終了することができます。



2. レポート出カウィザードの実行

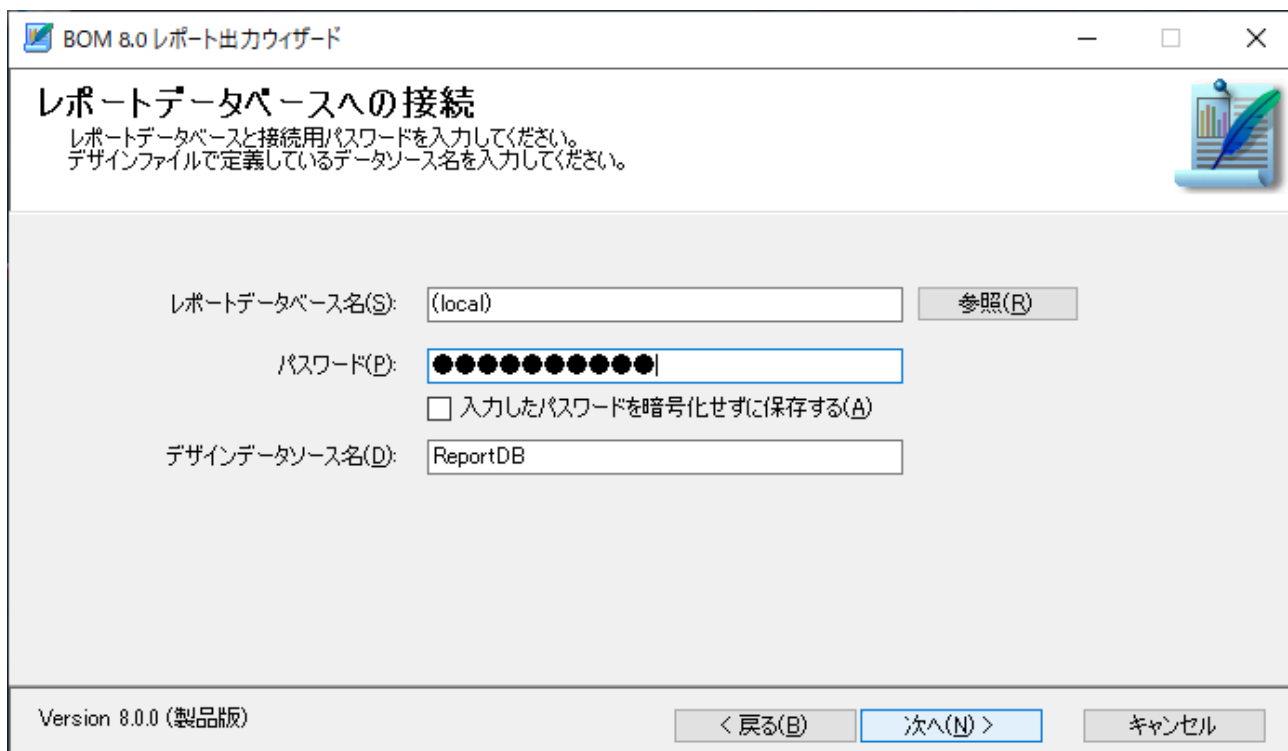
レポート出カウィザードの各画面について説明します。

(1) ウェルカム

レポート出カウィザードを起動すると、以下のウェルカム画面が表示されます。



(2) レポートデータベースへの接続



- "レポートデータベース名"欄

"レポートデータベース名"欄には、レポートデータベースのコンピューター名またはIPアドレスを入力します。SQL Serverの名前付きインスタンスを使用している場合は以下のように入力してください。

コンピューター名¥インスタンス名

設定したレポートデータデータベースはレポートクライアントに保存され、次回以降のレポート出力ウィザード使用時には自動で入力されます。

- [参照]ボタン

レポートデータベースをネットワーク一覧から選択したい場合、[参照]ボタンをクリックします。

- "パスワード"欄

"パスワード"欄には、レポートデータベースへの接続パスワード（既定では"**Report6Bom**"）を入力します。

- "入力したパスワードを暗号化せずに保存する"チェックボックス

チェックボックス"入力したパスワードを暗号化せずに保存する"にチェックを入れると、入力したパスワードを暗号化せずに設定ファイル内に保存します。入力したパスワードの暗号化する場合は、チェックボックスのチェックをはずします。

- "デザインデータソース名"欄

デザインデータソース名を指定します。デザインデータソース名は"ReportDB"以外を指定すると正常にレポートが出力できなくなります。

(3) レポート出力期間の指定

出力年 2022年

出力期間 2022/03/01 ~ 2022/03/31

出力形態 PDF (*.pdf)

出力フォルダー C:\Users\Administrator\Documents 参照(R)

レポートは出力フォルダーに「コンピューター名_出力月」のファイル名フォーマットで出力されます。

Version 8.0.0 (製品版) < 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

- "出力年"欄

"出力年"欄にはレポート出力対象の年を、プルダウンメニューから指定します。

- "出力期間"欄

"出力期間"欄には、レポート出力対象の開始日および終了日を指定します。

- "出力形態"欄

"出力形態"欄では、レポート出力形態をMHTML形式、Excel形式 (xlsx)、およびPDF形式から選択します。

出力形態	PDF (*.pdf) ▼
出力フォルダー	MHTML (MIME Encapsulation of Aggregate HTML) Microsoft Office Excel (*.xlsx) PDF (*.pdf)

- "出力フォルダー"欄

"出力フォルダー"欄には、レポートのファイル出力先フォルダーを指定します。初回起動時には、既定値としてレポート出力ウィザードを実行しているユーザーのドキュメントフォルダーが設定されています。

設定した出力フォルダーはレポートクライアントに保存され、次回以降のレポート出力ウィザード使用時に自動入力されます。

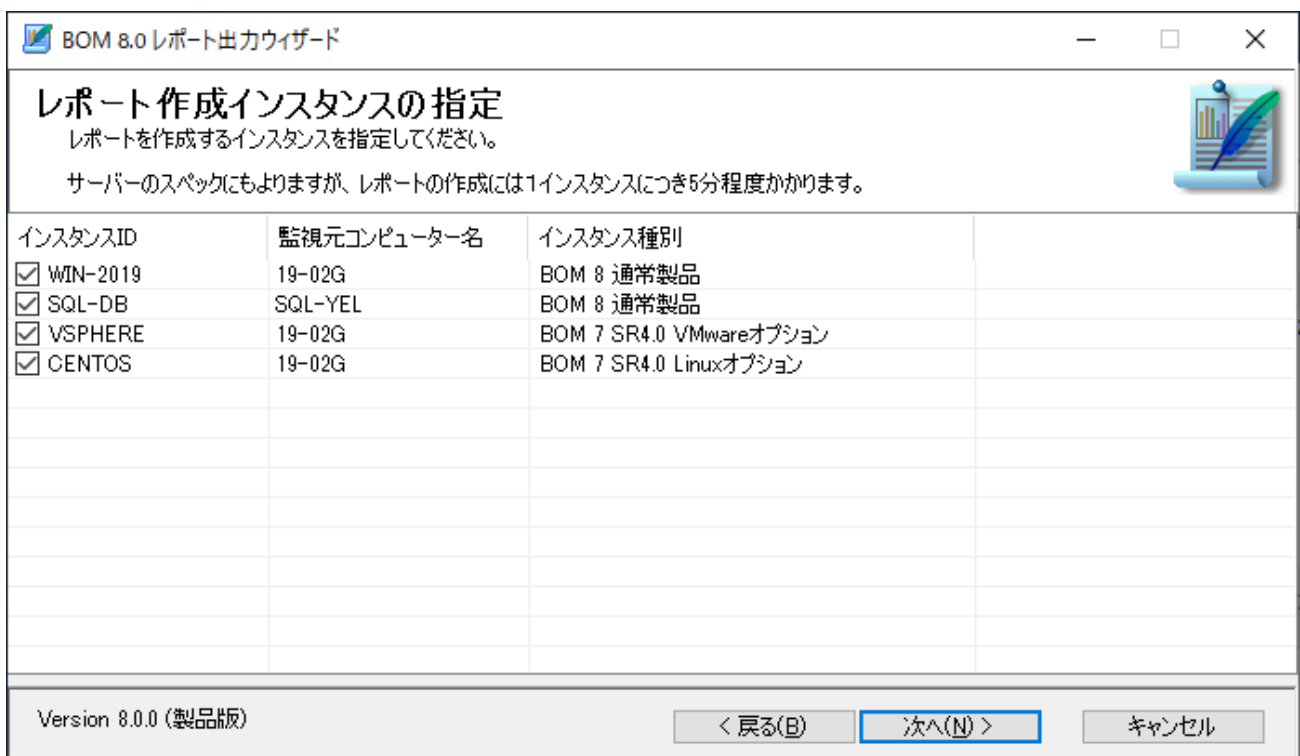
- [参照]ボタン

出力フォルダーをコンピューターのフォルダー一覧から選択したい場合、[参照]ボタンをクリックします。

(4) レポート作成インスタンスの指定

レポート出力インスタンスの指定画面では、レポートを出力する監視コンピューターを指定できます。

レポートデータベース上に蓄積されている監視コンピューターの"インスタンスID"、"監視元コンピューター名"、"インスタンス種別"について表示します。



- "インスタンスID"チェックボックス

"インスタンスID"の左側にあるチェックボックスにチェックを入れることで、そのインスタンスをレポート出力の対象にします。

インスタンスID	監視元コンピューター名	インスタンス種別
<input checked="" type="checkbox"/> WIN-2019	19-02G	BOM 8 通常製品
<input checked="" type="checkbox"/> SQL-DB	SQL-YEL	BOM 8 通常製品
<input checked="" type="checkbox"/> VSPHERE	19-02G	BOM 7 SR4.0 VMwareオプション
<input checked="" type="checkbox"/> CENTOS	19-02G	BOM 7 SR4.0 Linuxオプション

- "インスタンス"とは、BOM監視サービスの監視単位です。詳細については'BOM for Windows Ver.8.0 ユーザーズ マニュアル'を参照してください。

- 列タイトル

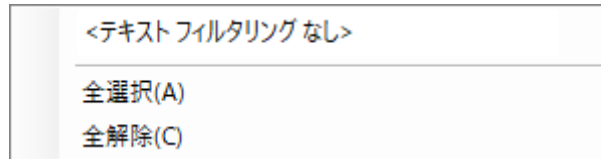
"インスタンスID"、"監視元コンピューター名"、"インスタンス種別"の各列において、タイトルをクリックすると並び替えが実行されます。

インスタンスID	監視元コンピューター名	インスタンス種別
----------	-------------	----------

- 列タイトル右クリックメニュー

列タイトルを右クリックすることで、右クリックメニューが呼び出せます。

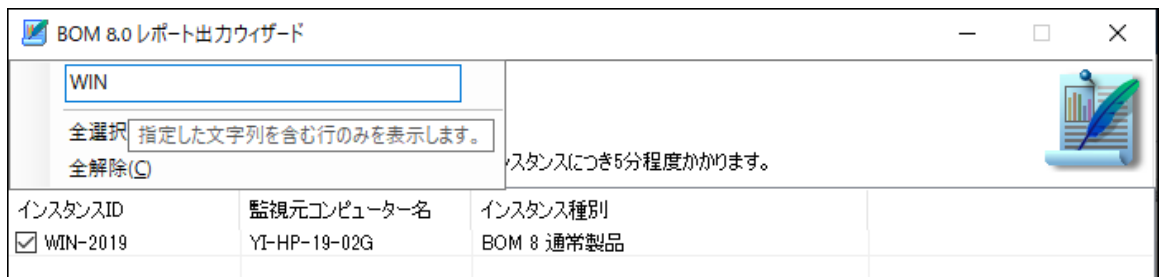
"インスタンスID"の右クリックメニューからは"テキストフィルタリング"機能、"全選択"機能、および"全解除"が利用できます。また"監視元コンピューター名"、"インスタンス種別"の右クリックメニューからは"テキストフィルタリング"機能が利用できます。



- "テキストフィルタリング"機能

"テキストフィルタリング"機能は、文字列を入力して"Enter"キーを押下することで、入力した文字列と部分一致した名称 ("インスタンスID"、"監視元コンピューター名"、"インスタンス種別") の行を表示する機能です。

テキストフィルタリングを解除する場合には、入力した文字列を削除した上で、"Enter"キーを押下します。



- "全選択"機能

"全選択"機能は、すべてのインスタンスのチェックボックスにチェックを入れます。

- "全解除"機能

"全解除"機能は、すべてのインスタンスのチェックボックスからチェックを外します。

(5) レポートデザインの指定

レポートデザインの指定画面では、出力するレポートを選択できます。

なお、出力可能なレポートについては'BOM Reportオプション Ver.8.0 デザインファイル仕様'を参照してください。

BOM 8.0 レポート出カウイザード

レポートデザインの指定

レポートで出力するデザインを選択してください。

C:\ProgramData\SAY Technologies\BOMW8\BOM Forms Design\ReportDesigner

No	デザインファイル名
0	¥Windows¥101_サーバー診断レポート.frx
1	¥Windows¥102_過去比較情報.frx
2	¥Windows¥103_詳細グラフ情報(横).frx
3	¥Windows¥103_詳細グラフ情報(縦).frx
4	¥Windows¥104_システム基本情報.frx
5	¥Windows¥105_ハードウェア情報.frx
6	¥Windows¥106_ソフトウェア情報.frx
7	¥Windows¥107_ハードウェア・ソフトウェア差分情...
8	¥Windows¥108_プロセス詳細情報.frx
9	¥Windows¥109_ディスクオータ情報.frx
10	¥Windows¥110_アプリケーションログ情報.frx
11	¥Windows¥111_システムログ情報.frx

選択したデザインをひとつのファイルにまとめて出力する(A)

Version 8.0.0 (製品版)

- "選択したデザインをひとつのファイルにまとめて出力する"チェックボックス

"選択したデザインをひとつのファイルにまとめて出力する"チェックボックスにチェックをいれると、出力するレポートが一つのファイルで出力されます。複数のファイルで出力したい場合には、チェックボックスのチェックを外してください。

(6) デザインデータソースの設定

本項目は今後の機能拡張時に使用します。現時点では使用しない為、[次へ]ボタンで進んでください。

BOM 8.0 レポート出カウイザード

デザインデータソースの設定

デザインに設定しているデータソース名を設定してください。

2つ目のデータソースを使用する(Y)

サーバー名(S):

データベース名(T):

SQL Server認証を使用する(W)

ユーザー名(U):

パスワード(P):

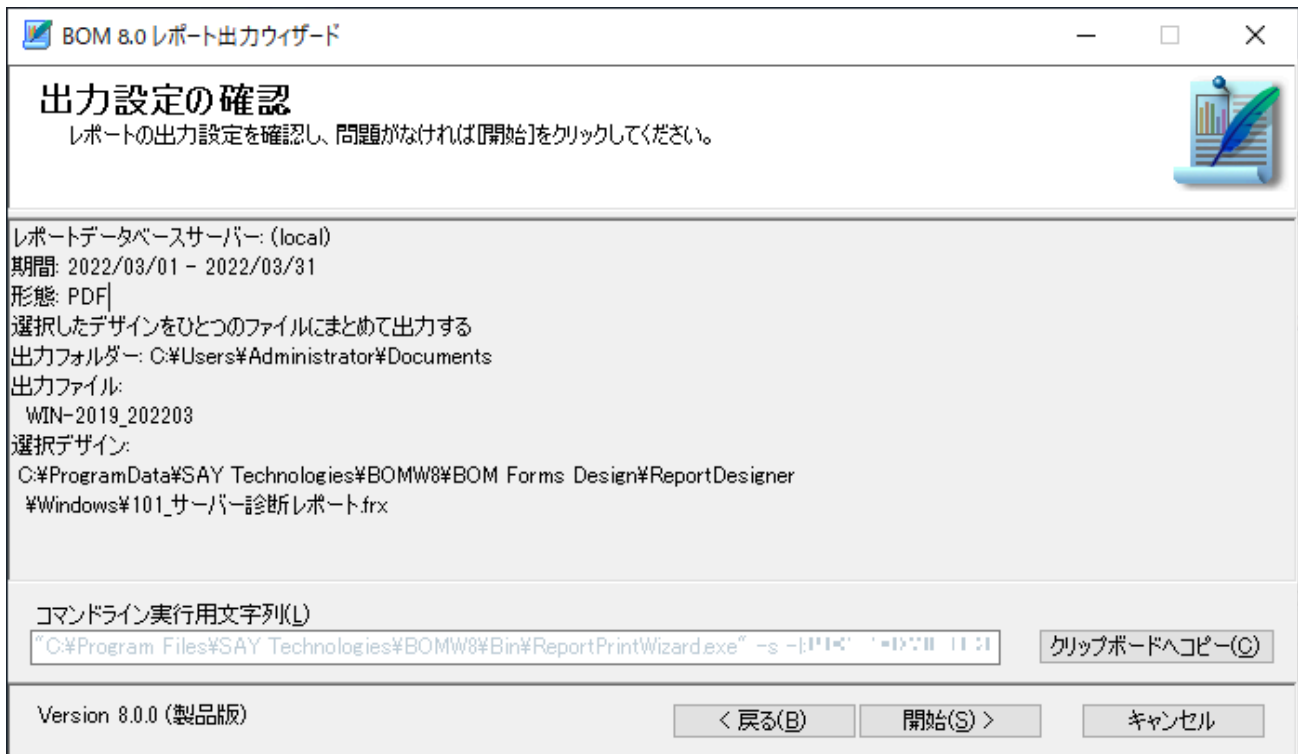
入力したパスワードを暗号化せずに保存する(A)

デザインデータソース名(D):

Version 8.0.0 (製品版)

(7) 出力設定の確認

出力設定の確認画面では、ウィザードでここまで指定した内容を表示します。



レポートデータベースサーバー: (local)
期間: 2022/03/01 - 2022/03/31
形態: PDF
選択したデザインをひとつのファイルにまとめて出力する
出力フォルダー: C:\Users\Administrator\Documents
出力ファイル:
WIN-2019_202203
選択デザイン:
C:\ProgramData\SAY Technologies\BOMW8\BOM Forms Design\ReportDesigner
Windows\101_サーバー診断レポート.frx

コマンドライン実行用文字列(L)
"C:\Program Files\SAY Technologies\BOMW8\Bin\ReportPrintWizard.exe" -s -:|!< '=>|| |!|

クリップボードへコピー(C)

Version 8.0.0 (製品版)

< 戻る(B) 開始(S) > キャンセル

- "設定確認"欄

レポート出力ウィザードで指定した内容が表示されます。出力する内容に間違いがないか確認してください。



レポートデータベースサーバー: (local)
期間: 2022/03/01 - 2022/03/31
形態: PDF
選択したデザインをひとつのファイルにまとめて出力する
出力フォルダー: C:\Users\Administrator\Documents
出力ファイル:
WIN-2019_202203
選択デザイン:
C:\ProgramData\SAY Technologies\BOMW8\BOM Forms Design\ReportDesigner
Windows\101_サーバー診断レポート.frx

- "コマンドライン実行用文字列"欄

"コマンドライン実行用文字列"欄は、レポート出力時に実際に実行するレポート出力コマンドの内容です。このレポート出力コマンドをコピーし、メモ帳などを使用してバッチファイルとして構成することで、後からレポート出力コマンドを実行することができます。

※ 各種引数については非公開です。

- [クリップボードへコピー]ボタン

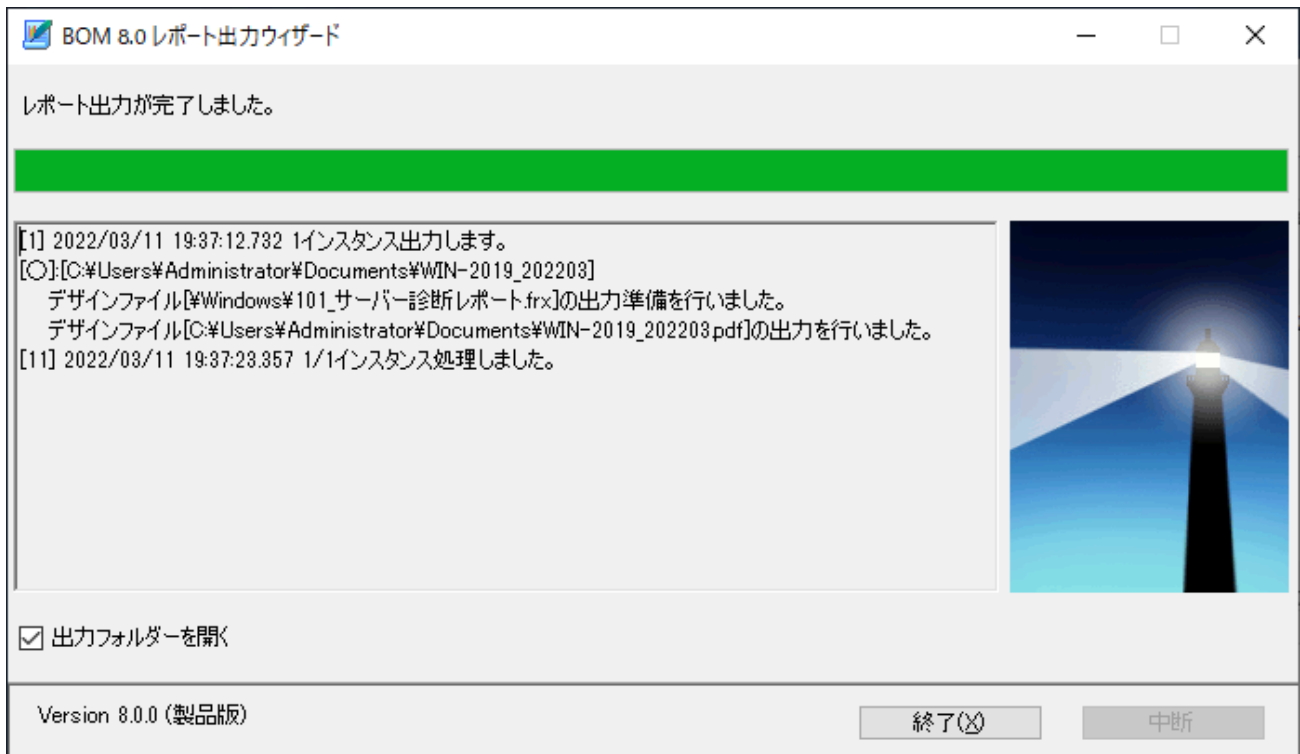
[クリップボードへコピー]ボタンをクリックすることで、"コマンドライン実行用文字列"をクリップボードにコピーすることができます。

- [開始]ボタン

[開始]ボタンをクリックすることでレポート出力が開始されます。指定内容に間違いがないことを確認した上で、[開始]ボタンをクリックしてください。

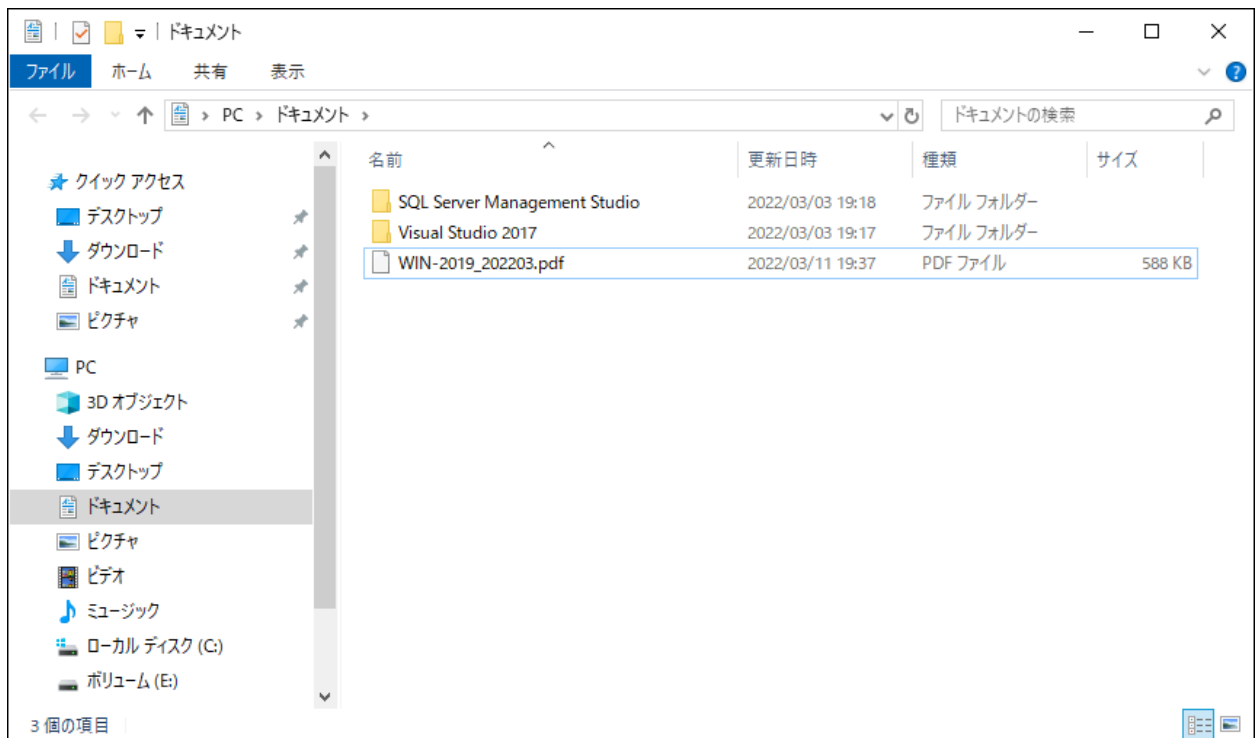
(8) レポート完了

レポート出力が完了するとレポート完了画面が表示されます。



- "出力フォルダーを開く"チェックボックス

チェックボックス"出力フォルダーを開く"のチェックが入っている場合、終了時に'[レポート出力期間の指定](#)'の"出力フォルダー"で指定したフォルダーが開きます。



- [終了]ボタン

[終了]ボタンをクリックすることで、ウィザードのすべての処理が完了します。

第5章 出力レポート

各種出力レポートの詳細については、'BOM Report オプション Ver.8.0 デザインファイル仕様'を参照してください。

BOM Report オプション Ver.8.0 ユーザーズマニュアル

2022年5月9日 初版

2025年1月31日 改訂版

著者・発行者・発行

セイ・テクノロジーズ株式会社

バージョン 8.0.20.0

(C) 2022 SAY Technologies, Inc.